

うみがめニュースレター

UMIGAME NEWSLETTER OF JAPAN

No.103 2016



| | |
|-------------------------------------|----|
| 【原著論文】産卵期間中に保護収容されたアカウミガメの卵胞サイズの変化 | 2 |
|石原 孝 | |
| 沖縄島大宜味村における規則的な産卵サイクルを持ったタイマイの記録 | 6 |
|米須邦雄・古我知 睦・嘉陽宗幸・河津 勲 | |
| 定置網での再捕獲が示唆するアカウミガメの交尾海域ー沖縄島西海域の事例ー | 10 |
|高橋優実・古堤桂太・中西 悠・河津 勲 | |
| 第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉 の開催報告とお礼 | 13 |
|日本ウミガメ協議会 事務局 | |
| 2015年ウミガメ速報 | 15 |
|日本ウミガメ協議会 | |
| うみがめニュースレターに投稿される方へ | 37 |
| 編集後記 | 39 |
|石原 孝 | |

■デジタル(PDF)版も利用できます

専用サイト (http://www.umigame.org/J1/katsudou_newsletter.html) からネット上でデジタル版(PDF版) うみがめニュースレターをダウンロードしていただくことができます。デジタル版の利用が可能な方で、アナログ版(紙に印刷され郵便で届く従来の冊子)の配信中止をご希望の方は、お手数ですが、newsletter@umigame.orgまでご連絡ください。タイトルに、「アナログ版不要」とご記入の上、本文には、受取人氏名(封筒に明記してある個人名または団体名)を明記してメールを送信してください。経費削減と紙資源の節約に対する皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

■寄付のお願い

「うみがめニュースレター」は、これまで小笠原村からの補助を受けて発行されてきましたが、2011年度を持ちまして本補助事業が休止となりました。現在は日本ウミガメ協議会より補助を受けて発行を継続しておりますが、財政状況はこれまで以上に厳しい状況にあります。今後も皆様からの温かいご寄付をお待ちしております。切手の寄付も大歓迎です。また、協賛広告も併せて募集中です。詳細はメールで newsletter@umigame.org までお問い合わせ下さい。

郵便振替口座 10120-25391001

加入者名 うみがめニュースレター編集委員会

連絡先

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町3-17-18-302 日本ウミガメ協議会内

Tel: 072-864-0335 Fax: 072-864-0535 e-mail: newsletter@umigame.org

■寄稿者へのお知らせ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取り扱い掲載しています。生物学的知見はもちろんのこと、ウミガメに関わる民俗、保護、論評や意見、会議報告なども含みます。様式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の関連機関や研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承下さい。

■表紙の写真

表浜海岸(愛知県豊橋市)に上陸したアオウミガメの足跡。2015年8月14日と20日の朝に見つかった。残念ながらどちらも上陸のみで産卵はなかった。表紙写真は20日のもの。本州でのアオウミガメの上陸産卵例は非常に少なく、2008年の表浜海岸での産卵と2005年の千里の浜(和歌山県みなべ町)でのアオウミガメらしき上陸跡の2例に過ぎない。(表浜ネットワーク 田中雄二)

産卵期間中に保護收容されたアカウミガメの卵胞サイズの変化

Change in the size of ovarian follicles in a loggerhead turtle during the late nesting period

石原 孝¹

Takashi ISHIHARA

ABSTRACT

A female nesting loggerhead turtle was trapped on a rock on Shiina beach (33 ° 19' 15.0" N, 134 ° 11' 40.5" E), Muroto, Kochi prefecture, Japan, on July 21, 2010. Flipper tags for identification had been attached to the turtle. From the tag records, she had landed on Shiina beach on June 30, 2010 and had nested at Senri beach, Minabe, Wakayama prefecture on July 7, 2008. The female was kept in a reserve tank at Suma Aqualife Park, Kobe, Hyogo, from July 27, 2010 to March 28, 2011 and was then released near the captured site on March 29, 2011. The female was fed one Japanese flying squid (200–250 g) per day. The standard straight carapace length was 87.3 cm during both preservation and at the time of release, and her body weight did not significantly change i.e., from 83.5 kg to 84.0 kg. The maximum diameter of the follicle, measured using ultrasonographic images, first increased over a period of 11 days, from 26.3 mm on July 25, 2010 to 30.3 mm on August 5, 2010 (0.36 mm/day), and then decreased from 30.6 mm on August 12, 2010 to 14.6 mm on March 28, 2011 (-0.070 mm/day). The increase in the follicle diameter may be in preparation for the next ovulation, which canceled due to a change in the environmental conditions, thereby suggesting that vitellogenesis for subsequent ovulation would still occur during the interesting interval.

KEY WORDS: follicular development, loggerhead turtle, ovarian observation, reproduction, vitellogenesis

はじめに

西日本の太平洋岸を中心に、日本の砂浜ではアカウミガメ (*Caretta caretta*) が産卵している。

主に5月から8月上旬にかけて産卵し、その間に1頭の雌が1-6回繰り返して産卵する (Nishimura, 1994)。個体や地域による差はあるものの、産卵と産卵の間隔は一般に14日程度であるとされ (Dodd, 1988)、日本でも同様の報告がある (Iwamoto et al., 1985; Nishimura, 1994)。観察された1頭あたりの平均産卵回数は宮崎県宮崎市の海岸で1.10回、鹿児島県屋久島で2.06回であったが、産卵する砂浜を変更する個体もいるため実際の産卵回数はそれ以上とされる (Iwamoto et al., 1985; Nishimura, 1994)。産卵は卵黄形成という形で多大なエネルギーを雌に強いるため、多くの個体では毎年産卵することはできない。中には翌年も産卵する個体もいるが、和歌山県みなべ町千里浜での研究では2年後に産卵する個体が多く、産卵回帰の間隔は平均すると 2.7 ± 1.0 年と報告されている (Hatase et al., 2004)。

雌体内での産卵準備は産卵に先駆けて秋頃からはじまる。卵巣内の卵母細胞に卵黄が形成され始めることで卵胞が発達し、この発達した卵胞は春の交尾を経て排卵される (Blanvillain et al., 2011)。排卵された成熟卵は卵管内で受精し、卵白と卵殻に覆われ産卵に至り、その数時間後から3日後にかけて次回産卵のための排卵が起こる (Licht et al., 1979, 1982)。ウミガメの卵黄形成の行われる時期に関しては、オサガメ (*Dermodochelys coriacea*) やヒメウミガメ (*Lepidochelys olivacea*) での研究を中心にして、産卵期の始まるまで、シーズン最初の産卵を行う前には卵黄形成が完了しているとされる (Rostal et al., 2001; Rostal, 2005)。しかし、産卵期間中の卵巣に卵黄の蓄積量の異なる卵胞が存在すること (Owens, 1980) や卵黄形成の第一刺激であるエストラジオール-17 β が産卵期間中にピークを示し、最終産卵に向かってこのピークがなくなること (柳澤, 2012) から、産卵期間中も卵黄形成は継続して行われている、との考えも存在する。本報はアカウミガメ1個体の

¹ 神戸市立須磨海浜水族園・NPO 法人日本ウミガメ協議会 E-mail: t-ishihara@sumasui.jp

みについてではあるが、その年の最終産卵後に卵胞のサイズが増大したことを記録したもので、ウミガメの卵黄形成の時期に関する重要な知見となることから、その結果を報告する。

材料と方法

2010年7月21日に高知県室戸市室戸岬町の椎名海岸にて、産卵後の帰海中に岩場にはまり動けなくなったアカウミガメが発見された。発見時、やや衰弱した様子が見られたことから、この個体を約7km離れた高岡漁港へ移送し、屋根のある屋外荷揚げ場所にて、容量約1000L (1.6×1.1×0.6m)の水産用コンテナ(三甲株式会社製 ジャンボックス #1000)に保護収容した。収容翌日には活発な動きも見られるようになり、健康上の問題は無いものと思われた。一方で研究上の観点から、発見時期が産卵期の終盤であり産卵期後の卵胞のサイズ変化追跡に適した個体であったため、高知県海区漁業調整委員会指示第58号のうみがめ採捕にかかる承認を受け、継続飼育して観察を続けることとした。高岡漁港での飼育期間は6日間で、同年7月27日に兵庫県の神戸市立須磨海浜水族園(以後、須磨水)に移送し、2011年3月29日に椎名海岸近くの岸壁から放流した。須磨水ではバックヤードにある6500L (3.6×2.3×0.6m)の室内予備水槽にて飼育しており、予備水槽には23–25°C前後に保たれた大水槽の水が循環していた。大水槽は容量1200kLで、1300kLの濾過槽

にて循環濾過しており、不定期で須磨水前の海岸から汲み上げた海水を物理フィルターに通した新鮮海水と一部換水している。

高岡漁港での摂餌量は不明であるが、須磨水に移送させた時点では給餌後すぐに摂餌行動が見られた。須磨水での飼育期間中は1日あたり200–250gのスルメイカ (*Todarodes pacificus*) 1杯を給餌し、全量摂餌するのを確認した。また、保護してから放流するまでの標準直甲長は87.3cmで変化がなく、体重も保護時83.5kgに対して放流時84.0kgと、ほとんど変化はみられなかった。

卵巣の状態は超音波画像診断装置(日立メディコ社製 ECHOPAL II)を用いて(以後、エコー検査)観察した。エコー検査の実施にあたり、予備水槽の海水はすべて排出し、底面に毛布を敷いた上で個体を仰臥位とした。次に、左右いずれかの鼠径部に超音波検査用ゲル(輸入代理店:株式会社ホスピタルサービス PROGEL-II)を塗布し、3.5MHzのコンベックス形プローブ(日立メディコ社製 EUP-C514)を当て、170mmの探查深度で卵胞を探索した。卵黄蓄積量の増減を測るため、最大直径の映ったところで画像を静止し、印刷した画像から卵胞の直径の最大値を測定した(図1)。エコー検査は2010年7月25日から2011年3月28日にかけて行い、検査開始当初は3–5日に一度の頻度で集中的に実施した。卵胞の最大直径の変化速度は増加時と減少時に分けて、それぞれの増減率(単位日数あたり最大直径mmの増減)で表した。

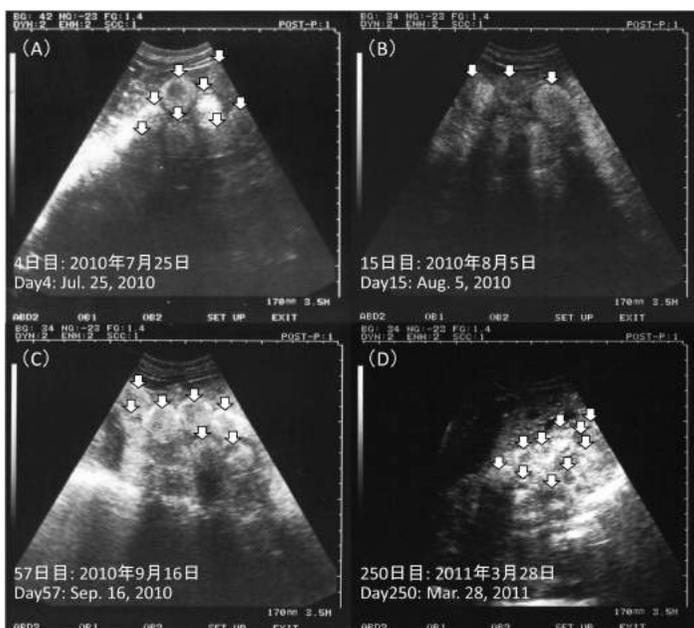


図1. 超音波画像下での卵胞サイズ。卵胞サイズは卵胞の直径の最大値で表した。画像から読み取った卵胞サイズは産卵後4日目が26.3mm (A)、15日目が30.3mm (B)、57日目が22.9mm (C)、250日目が14.6mm (D)であった。卵胞の位置を矢印で示す。図内の1目盛は1cm。

Figure 1. Follicle size on ultrasound images. Follicle sizes present the maximum diameter of the follicle. Follicle size on days 4 (A), 15 (B), 57 (C), and 250 (D) after the last oviposition is calculated from the ultrasound images as 26.3, 30.3, 22.9, and 14.6 mm, respectively. The follicles are indicated by arrows. Scale span = 1 cm.

なお、本個体は左前肢に黄色のプラスチックジャンボタグ (タグ No. 43967)、右前肢にインコネルタグ (タグ No. 59681) の個体識別標識が装着されており、同年 6 月 30 日に椎名海岸で上陸するも産卵に至らず帰海していること、2008 年 7 月 7 日に和歌山県みなべ町千里浜において産卵していたことが確認された。

結果と考察

卵胞の最大直径は 7 月 25 日 (26.3mm) から 8 月 5 日 (30.3mm) の 11 日間において 0.36 mm/日 で増加した (図 2)。8 月 12 日 (30.6mm) まで 30mm 前後で推移した後、放流日 (2011 年 3 月 28 日) に向かって -0.070mm/日のペースで減少した (図 2)。また、エコー検査中に卵殻卵は全く観察されず、産卵することもなかった。保護期間中に産卵していないことから、保護日である 2010 年 7 月 21 日が本個体のこの年最終の産卵日となった。

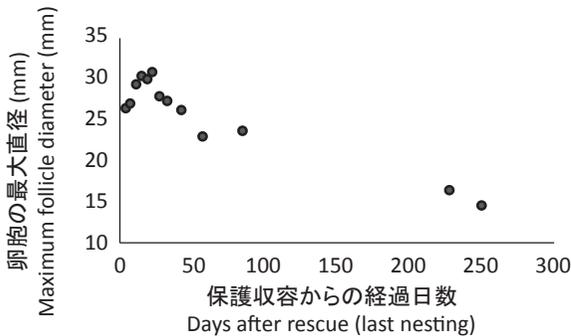


図 2. 超音波画像下における卵胞の最大直径の変化。
Fig. 2. Change in the maximum follicle diameter on ultrasonographic images.

ウミガメ類の卵黄形成はエストロゲン (主にエストラジオール -17 β) が第一刺激となり (Heck et al., 1997), その分泌量は産卵の進行とともに減少し (Rostal, 2005; Rostal et al., 2001), 下限値レベルに達する最終産卵時にはもはや卵黄形成は行われぬ (Blanvillain et al. 2011) とされる。本個体では、保護以降に卵形成や産卵をしなかったにもかかわらず、保護 (産卵) から 15 日後にかけて卵胞サイズの成長が確認された。さらに、この成長期間はアカウミガメの平均的な産卵間隔 (14 日間, Dodd, 1988) とほぼ等しかった。これらの結果は保護することがなければ、正常に排卵、卵形成および産卵して

いた可能性を示し、産卵期中にも卵黄形成が引き続き行われたことを示唆する。ウミガメ類での卵黄形成は初回産卵までに基本的に完了するとされているが (Blanvillain et al. 2011; Rostal, 2005; Rostalet et al., 2001; Wibbels et al. 1990), 本個体と同様に、初回産卵後においても次回産卵のための卵黄形成が続く個体もいることが指摘されている (Blanvillain et al. 2011; Owens, 1980; 柳澤, 2012)。また、漁業による混獲によって死亡した別個体のアカウミガメの剖検結果では、その卵胞のサイズは同一ではなく、卵黄形成が進行中と思われる卵胞も観察されている (石原・斎藤, 未発表; 図 3)。この個体が死亡し剖検されたのは産卵期に入るかどうかの 2008 年 4 月 28 日のことで、卵殻のついた卵が卵管内に多数見られることから、産卵期最初の産卵を控えた個体と考えられた。従って死亡した時点で卵巣内にあった卵胞は 2 回目以降の産卵に備えて卵黄が蓄積されているものと考えられた。産卵期の始まる前に全ての卵黄形成が終わっているとすれば、この個体の卵胞はすべてほぼ同量の卵黄が蓄積されているはずだが、そうではなかった。このこともまた、アカウミガメでは卵黄形成が産卵期間中にも進行することを支持している。

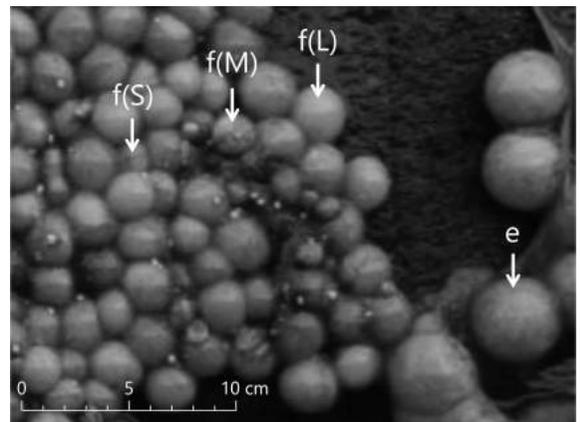


図 3. 産卵期のアカウミガメの卵巣と卵管。卵管内に卵殻卵 e を持つ個体の卵巣内で、卵黄形成が完了したと思われる卵胞 f(L)、卵黄形成途中と思われる卵胞 f(M) および f(S) が同時に認められた。(2008 年 4 月 28 日斎藤晃司氏撮影)

Fig. 3. Ovary and oviduct of the loggerhead turtle in the nesting period. Large size follicles with the yolk was fully deposited [f(L)], medium size [f(M)], and small size follicles [f(S)] coexisted in the ovary of the pregnant turtle with a calcified egg (e). (Photo by Koji Saito, April 28, 2008)

ウミガメ類は排卵後に卵殻形成が行われる (Owens, 1980)。したがって、保護後に卵黄形成が行われたことや、本個体のエコー検査において卵殻卵が確認されなかったことから、保護収容によって、排卵や卵殻形成が抑制された可能性が考えられた。このことは産卵を中断できる可能性を示している。産卵の抑制といえばアリバダ (arribada) と呼ばれる集団産卵をするヒメウミガメ属でのタイミングの同調や、ウミガメ類全般で産卵巣の作成に失敗した場合の再挑戦など、産卵を後日に引き延ばせる事例が良く知られている。つまり、それらの卵は体内に吸収されることなく、いつかは体外に排出 (産卵) される。すなわち、一度排卵してしまえば、あるいは排卵して卵殻が付いてしまえば、産卵の中断はできないものと考えられる。飼育環境下でも同様に、産卵を抑制できずに水中に放卵される事例もあり (増田修, 私信; 松沢慶将, 私信), どのような状況であれば排卵や産卵の中断が行われるのか, そもそも中断することは可能であるのかは定かではない。今回は残念ながら排卵や卵黄形成に関与する性腺刺激ホルモンや性ステロイドホルモンなどの性ステロイドホルモンの測定は行っていないために, 生理的な検証をすることができなかった。以上のようなウミガメ類における産卵抑制メカニズムの解明のためには, 飼育下においてさらなる生理および内分泌学的研究が必要である。

謝辞

日本ウミガメ協議会の亀崎直樹前会長, 松沢慶将会長には本報に関わる様々なご助言をいただき, 検査機器の調達, 飼育施設の調整にお力添えをいただいた。日本ウミガメ協議会室戸調査基地では福家弘晃氏, 原三保子さん, 優谷真理さんに個体を発見・保護いただいた。神戸市立須磨海浜水族園の職員の皆様, 特に海水チーム (当時) の平川雄治氏, 岩村文雄氏, 笠井優介氏, 日本ウミガメ協議会研究員 (当時) の大内裕貴氏には飼育と検査に多大なご協力をいただいた。沖縄美ら島財団の河津勲博士には原稿をまとめるにあたり, 多くのご助言をいただいた。心より感謝申し上げます。

引用文献

- Blanvillain, G., D. W. Owens and G. Kuchling. 2011. Hormones and reproductive cycles in turtles. p. 277–303. In: D. O. Norris and K. H. Lopez (eds.) *Hormones and Reproduction of Vertebrates, Volume 3 - Reptiles*. Elsevier Inc., Amsterdam, Boston, Heidelberg etc.
- Dodd, C. K. Jr. 1988. Synopsis of the biological data on the loggerhead sea turtle *Caretta caretta* (Linnaeus, 1758). U.S. Fish Wildl. Serv. Biol. Rep. 88 (14).
- Hamann, M., C. J. Limpus and D. W. Owens. 2003. Reproductive cycles of males and females. p. 135–161. In: P. Lutz, J. A. Musick, and J. Wyneken (eds.) *The Biology of Sea Turtles. Volume II*. CRC Press, Inc., Boca Raton, Florida.
- Hatase, H., Y. Matsuzawa, K. Sato, T. Bando and K. Goto. 2004. Remigration and growth of loggerhead turtles (*Caretta caretta*) nesting on Senri Beach in Minabe, Japan: life-history polymorphism in a sea turtle population. *Mar. Biol.* 144: 807–811.
- Heck, J., D. MacKenzie, D. Rostal, K. Medler and D. Owens. 1997. Estrogen induction of plasma vitellogenin in the Kemp's ridley sea turtle (*Lepidochelys kempi*). *Gen. Comp. Endocrinol.* 107(2): 280–288.
- Iwamoto, T., M. Ishii, Y. Nakashima, H. Takeshita and A. Itoh. 1985. Nesting cycles and migrations of the loggerhead sea turtle in Miyazaki, Japan. *Jap. J. Ecol.* 35: 505–511.
- Licht, P., D. W. Owens, K. Clifton and C. Penaflores. 1982. Changes in LH and progesterone associated with the nesting cycle and ovulation in the olive ridley sea turtle *Lepidochelys olivacea*. *Gen. Comp. Endocrinol.* 48: 247–253.
- Licht, P., J. Wood, D. W. Owens and F. Wood. 1979. Serum gonadotropins and steroids associated with breeding activities in the green sea turtle, *Chelonia mydas*: I. Captive animals. *Gen. Comp. Endocrinol.* 39(3): 274–289.
- Nishimura, W. 1994. Internesting interval and nest frequency for loggerhead turtles on Inakahama Beach, Yakushima Island, Japan. *Marine Turtle Newsletter* 67: 21–22.
- Owens, D. W. 1980. The comparative reproductive physiology of sea turtles. *Amer. Zool.* 20: 549–563.
- Rostal, D. C. 2005. Seasonal reproductive biology of the Kemp's ridley sea turtle (*Lepidochelys kempii*)

- : comparison of captive and wild populations. *Chelonian Conserv. Biol.* 4: 788–800.
- Rostal, D. C., J. S. Grumbles, K. S. Palmer, V. A. Lance, J. R. Spotila and F. V. Paladino. 2001. Changes in gonadal and adrenal steroid levels in the leatherback sea turtle (*Dermochelys coriacea*) during the nesting cycle. *Gen. Comp. Endocrinol.* 122: 139–147.
- Wibbels, T., D. W. Owens, C. J. Limpus, P. C. Reed and M. S. Amoss. 1990. Seasonal changes in serum gonadal steroids associated with migration, mating, and nesting in the loggerhead sea turtle (*Caretta caretta*). *Gen. Comp. Endocrinol.* 79: 154–164.
- 柳澤牧央 . 2012. 第 6 章 繁殖生理—生殖器官の形態と生理 . p. 141–163. 亀崎直樹 (編) ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学 . 東京大学出版会 , 東京 .

沖縄島大宜味村における規則的な産卵サイクルを持ったタイマイの記録

Record of a hawksbill turtle with regular reproductive cycle
in Ogimi of Okinawa Island, Japan

米須邦雄^{1,2}・古我知 睦²・嘉陽宗幸^{1,3}・河津 勲⁴

Kunio KOMESU, Makoto KOGACHI, Muneyuki KAYOU, and Isao KAWAZU

タイマイ *Eretmochelys imbricata* を含めたウミガメ類は、産卵のために複数年の間隔で砂浜を訪れ、1 シーズン中に複数回の産卵を繰り返すことが知られている (松沢, 2012; Miller, 1997). 沖縄島では、主にアカウミガメ *Caretta caretta* とアオウミガメ *Chelonia mydas* が産卵するが (Kikukawa et al., 1999), 稀にタイマイの産卵が確認される (照屋, 1994). 沖縄島大宜味村の砂浜では、2002 年から 2011 年にかけて、同タイマイによる産卵が 3 年間隔 (産卵回帰年数) で確認された. タイマイ産卵が極めて少ない沖縄島において、本例のような記録は、本種の生息状況を明らかにする上で重要な記録となるのでここに報告する.

沖縄島大宜味村は沖縄島の北西部に位置し、喜如嘉 (N26° 42' 32", E128° 08' 40") および大宜味 (N26°42'11", E128°07'11") の砂浜において (図 1), タイマイの産卵が確認された. これらの砂浜は国道 58 号に隣接し、間の距離は約 2 km と隣接している. 喜如嘉の砂浜は、後背地の植生として主にアダン *Pandanus odoratissimus* が自生しているが、豪雨時には赤土の流出が多く、特に南側では砂の流出が顕著にみられる (図 2).

また、過去に国道の街灯に誘引されたタイマイ孵化幼体が車に轢かれる、いわゆる「ロードキル」が確認されたこともある. 一方、大宜味の砂浜は、突堤で分断され、離岸堤の設置により砂の流出が多いことが特徴的である (図 3). 以上からも分かるように、これらの砂浜の特徴は、ウミガメ類の産卵する砂浜環境として適正でない.

タイマイの産卵は 2002–2011 年の間に喜如嘉で 11 回、大宜味で 2 回、計 13 回確認された (表 1). そのうち、2002 年 8 月 6 日、2005 年 7 月 18 日、2008 年 7 月 2 日および 2011 年 8 月 18 日には、産卵中の個体の頭部側部を写真撮影し、その概要を図 4 に示した. 2002 年、2005 年および 2011 年に撮影された左側頭部、および 2008 年と 2011 年の右側頭部の鱗板の配置は一致した. さらに、2002 年に装着した標識 (インコネルタグ、右前肢: JPN17636, 左前肢: JPN17637) は 2005 年には脱落していたが、2008 年に装着した標識番号は (インコネルタグ、右前肢: JPN28984, 左前肢: JPN28983), 2011 年のそれと一致した. 以上のことから、本報で確認された 13 回の産卵のうち、少なくとも産卵個体が

¹ 特定非営利活動法人日本ウミガメ協議会 (E-mail: kk814@kugani.jp)

² 大宜味村 (沖縄県)

³ 国頭村 (沖縄県)

⁴ 一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター (E-mail: i-kawazu@okichura.jp)

表 1. 2002 から 2007 年の沖縄島大宜味村におけるタイマイの産卵記録

Table 1. Nesting record of the hawksbill turtle in Ogimison of Okinawa Island during 2002–2011.

| 産卵日 Day of nesting | 砂浜 Beach | 産卵間隔(日) Interesting interval (day) |
|-----------------------|-------------|---------------------------------------|
| 2002/6/16 | 喜如嘉 Kijyoka | 20 |
| 2002/7/6 | 大宜味 Ogimi | 31 |
| 2002/8/6 | 喜如嘉 Kijyoka | |
| | | |
| 2005/7/4 | 喜如嘉 Kijyoka | 14 |
| 2005/7/18 | 喜如嘉 Kijyoka | |
| | | |
| 2008/6/16 | 喜如嘉 Kijyoka | 20 |
| 2008/7/6 | 喜如嘉 Kijyoka | 12 |
| 2008/7/18 | 大宜味 Ogimi | 19 |
| 2008/8/6 | 喜如嘉 Kijyoka | |
| | | |
| 2011/7/2 | 喜如嘉 Kijyoka | 14 |
| 2011/7/16 | 喜如嘉 Kijyoka | 16 |
| 2011/8/1 | 喜如嘉 Kijyoka | 17 |
| 2011/8/18 | 喜如嘉 Kijyoka | |

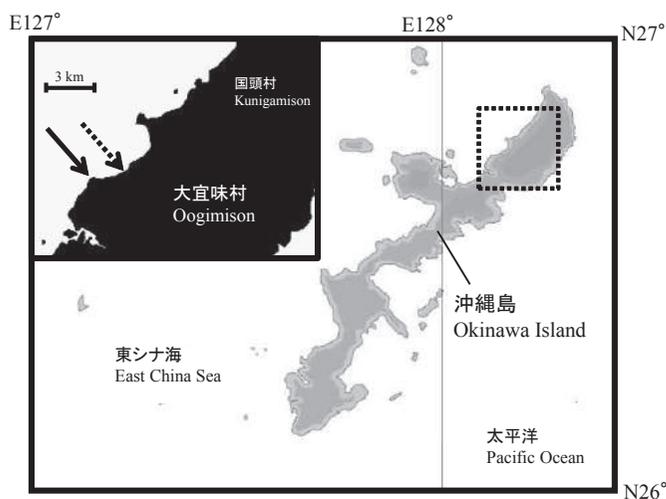


図 1. 沖縄島大宜味村喜如嘉 (点線矢印) および大宜味 (黒線矢印) の位置

Fig. 1. A map of Okinawa Island. The arrows show the sandy beach of Ogimi (black line) and Jyashiki (dotted line) Beach in Ogimison where the hawksbill turtle nested between 2002 and 2011.



図 2. 沖縄島大宜味村大宜味の砂浜の写真 (上: 北側から, 下: 南側から)

Fig. 2. Photographs of the sandy beach of Ogimi in Ogimison of Okinawa Island.



図 3. 沖縄島大宜味村喜如嘉の砂浜の写真 (上: 北側から, 下: 南側から)

Fig. 3. Photographs of the sandy beach of Kijyoka in Ogimison of Okinawa Island.

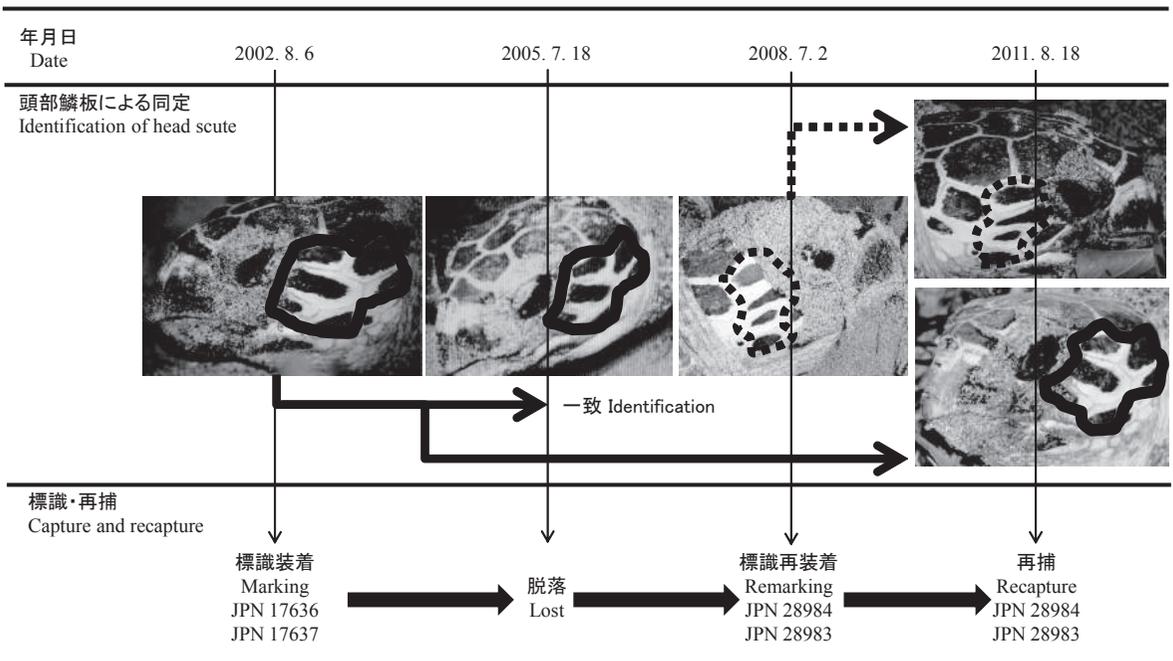


図4. 頭部鱗板および標識放流による産卵中のタイマイの個体識別

Fig. 4. Identification of the hawksbill turtles using photographic images of the head scutes and the flipper tags.

確認された4回は同一個体であり、本個体は2002年から2011年にかけて3年間隔で大宜味村の砂浜に産卵したと断定できる。さらに、タイマイを含めたウミガメ類は、一度産卵した砂浜あるいは近接した砂浜に固執して産卵し続けることが知られていることや (Miller, 1997), 本報の両浜が近接していることを考慮すると、本報の全ての産卵は同一個体によるものと推定される。

産卵回帰年数および平均産卵間隔 (産卵から次回産卵までの日数) は、それぞれ3年および 18.1 ± 5.6 日 (平均値 \pm SD, 幅:12-31日) であった (表1)。世界中のタイマイ産卵地における産卵回帰年数および平均産卵間隔を整理すると、それぞれ平均2-3年, 14-17日である (Diamond, 1976; Wood, 1986; Kamel and Delcroix, 2009; Mortimer and Bresson, 1999; Beggs et al., 2007; Bjorndal et al., 1985; Limpus et al., 1983; Loop et al., 1995; Richardson et al., 1999)。これらの先行研究と比較すると、本個体の産卵回帰年数や産卵間隔はほぼ一致する。

本個体の標準直甲長 (以下, 直甲長) と直甲幅は2008年と2011年の産卵確認時に計測し, 2008年でそれぞれ87.0 cm, 64.1 cm, 2011年でそれぞれ87.5 cm, 65.6 cmであった。また, 本

個体の直甲長の年間成長率 (1年あたりの成長) は0.17 cmと算出され, 2008年から2011年の間にはほとんど成長がみられなかった。Kamezaki and Hirate (1992) は沖縄島の南西に位置する八重山諸島におけるタイマイの直甲長の最大値は82.0 cmであったと報告しており, 本個体の直甲長はこれと比較すると大きい。この直甲長の差は本個体が産卵個体, すなわち性成熟した成体であることに起因すると考えられる。一方で国内における成体の直甲長に関する情報は, 八重山諸島の黒島における産卵個体において記録されている (亀田・若月, 2011)。この報告によると, 2007年および2011年に同一のタイマイが産卵し, その際の直甲長はそれぞれ88.7 cmおよび89.3 cmであった (亀田・若月, 2011)。この先行研究の記録から算出される年間成長率は0.15 cmで, 本稿の個体の年間成長率 (0.17 cm) とほとんど差はみられず, 成長は停滞している。このことは, Kawazu et al. (2015) によって報告されている, 飼育下の雌タイマイの卵黄形成後 (性成熟直前あるいは性成熟の段階) の成長が遅くなることを強く支持する。さらに, この成熟後の成長率の低下は飼育下のアオウミガメ, (Wood and Wood, 1980; Bjorndal et al., 2013), 野生のアカウミガメ (Hatase

et al., 2004) およびオサガメ *Dermochelys coriacea* (Price et al., 2004) においても確認されている。以上のような成熟後の成長率の減少や、本報の個体(直甲長 87. cm) や亀田・若月(2011) で確認された産卵個体(89.3 cm) が国内において最大サイズを示していることから、日本産のタイマイの成長可能なサイズは、直甲長 90 cm 程度である可能性が示唆される。

国内におけるタイマイ産卵の北限地は、沖縄と同様に南西諸島に属する奄美大島(水野, 2013) や加計呂麻島(亀崎ほか, 2001) である。しかし、これらの産卵地では定常的に産卵が確認されていない。本報で紹介した事例は、沖縄島で定常的に確認されるタイマイの産卵の唯一の事例である。このことから、沖縄島は恒常的なタイマイの産卵北限地であるといっても過言ではない。なお、本個体は 2002 年から 2011 年に 3 年間隔で沖縄島大宜味村の砂浜で産卵したものの、2011 年から 3 年後の 2014 年には、本砂浜でタイマイの産卵は確認されなかった。今後も引き続き、本個体のモニタリングを行うこととしている。

引用文献

- Beggs, J. A., J. A. Horrocks, and B. H. Krueger. 2007. Increase in hawksbill sea turtle *Eretmochelys imbricata* nesting in Barbados, West Indies. *Endangered Species Research* 3: 159–168.
- Bjorndal, K. A., A. Carr, A. B. Meylan, and J. A. Mortimer. 1985. Reproductive biology of the hawksbill *Eretmochelys imbricata* at Tortuguero, Costa Rica, with notes on the ecology of the species in the Caribbean. *Biological Conservation* 34: 353–368.
- Bjorndal, K. A., J. Parsons, W. Mustin, and A. B. Bolten. 2013. Threshold to maturity in a long-lived reptile: interactions of age, size, and growth. *Marine Biology* 160:607–616.
- Diamond. 1976. Breeding biology and conservation of hawksbill turtles, *Eretmochelys imbricata* L., on Cousin Island, Seychelles. *Biological Conservation* 9: 199–215.
- Hatase, H., Y. Matsuzawa, K. Sato, T. Bando, and K. Goto. 2004. Remigration and growth of loggerhead turtles (*Caretta caretta*) nesting on Senri Beach in Minabe, Japan: life-history polymorphism in a sea turtle population. *Marine Biology* 144:807–811.
- 亀田和成・若月元樹. 2011. 八重山諸島黒島におけるタイマイの産卵生態について. *ウミガメニュースレター* 89: 11–14.
- Kamel, S. J. and E. Delcroix. 2009. Nesting ecology of the hawksbill turtle, *Eretmochelys imbricata*, in Guadeloupe, French West Indies from 2000–07. *Journal of Herpetology* 43: 367–376.
- Kamezaki, N. and K. Hirate, K. 1992. Size composition and migratory cases of hawksbill turtles, *Eretmochelys imbricata*, inhabiting the waters of the Yaeyama Islands, Ryukyu Archipelago. *Japanese Journal of Herpetology* 14: 166–169.
- 亀崎直樹・服部正策・鈴木 博. 2001. 奄美諸島・加計呂麻島におけるタイマイ繁殖の初記録. *爬虫両棲類学会報* 2001: 16–17.
- Kawazu, I., M. Kino, K. Maeda, and H. Teruya. 2015. Age and body size of captive hawksbill turtles at the onset of follicular development. *Zoo Biology* 34: 178–182.
- Kikukawa, A., N. Kamezaki, and H. Ota. 1999. Current status of the sea turtles nesting on Okinawajima and adjacent islands of the central Ryukyu, Japan. *Biological Conservation* 87: 149–153.
- Limpus, C. J., J. D. Miller, V. Baker, and E. McLachlan. 1983. The hawksbill turtle, *Eretmochelys imbricata* (L.), in north-eastern Australia: the Campbell Island rookery. *Australian Wildlife Research* 10: 185–197.
- Loop, K. A., J. D. Miller, and C. J. Limpus. 1995. Nesting by the hawksbill turtle (*Eretmochelys imbricata*) on Milman Island, Great Barrier Reef, Australia. *Wildlife Research* 22: 241–251.
- 松沢慶将. 2012. 繁殖生態 交尾と産卵 . p. 115–140. 亀崎直樹 (編) *ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学*. 東京大学出版会, 東京.
- Miller, J. D. 1997. Reproduction in sea turtles. p. 51–81. In: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.) *The Biology of Sea Turtles*. CRC press, Boca Raton, Florida.
- 水野康次郎. 2013. タイマイ *Eretmochelys imbricata* の産卵北限記録の更新—鹿児島県奄美大島崎原海岸(須野地区)における産卵—. *ウミガメニュースレター* 97: 18–19.
- Mortimer J. A. and R. Bresson. 1999. Temporal distribution and periodicity in hawksbill turtles (*Eretmochelys imbricata*) nesting at Cousin

- Island, Republic of Seychelles, 1971–1997. *Chelonian Conservation and Biology* 3: 318–325.
- Mrosovsky, N. 1980. Thermal biology of sea turtles. *American Zoologist* 20:531–547.
- Price, E. R., B. P. Wallace, R. D. Reina, J. R. Spotila, F. V. Paladino, R. Piedra, and E. Vélez. 2004. Size, growth, and reproductive output of adult female leatherback turtles *Dermochelys coriacea*. *Endangered Species Research* 5: 1–8.
- Richardson, J. I., R. Bell, and T. H. Richardson. 1999. Population ecology and demographic implications drawn from an 11-year study of nesting hawksbill turtles, *Eretmochelys imbricata*, at Jumby Bay, Long Island, Antigua, West Indies. *Chelonian Conservation and Biology* 3: 244–250.
- 照屋秀司 . 1994. 沖縄本島におけるタイマイの産卵上陸確認と稚仔の育成について . p. 17–20. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編) 日本のウミガメの産卵地 . 日本ウミガメ協議会 , 大阪 .
- Wood, V. E. 1986. Breeding success of hawksbill turtles *Eretmochelys imbricata* at Cousin Island, Seychelles and the implications for their conservation. *Biological Conservation* 37: 321–332.
- Wood, J. R. and F. E. Wood. 1980. Reproductive biology of captive green sea turtles *Chelonia mydas*. *American Zoologist* 20:499–505.

SUMMARY

By examining photographic images of head scute and flipper tags, we identified the nesting turtles on Ogimi (N26° 42' 11", E128° 07' 11") and Kijyoka Beach (N26° 42' 32", E128° 08' 40") in Ogimison of Okinawa Island from 2002 to 2011. We confirmed a hawksbill turtle that had a remigration interval of three years. The straight carapace lengths of the turtle were 87.0 cm and 87.5 cm in 2008 and 2011. The size of the turtle was found to be larger than those in conspecific assemblages in other areas of Japanese waters with the only one exception, which may be the asymptotic size of hawksbill turtles that nest in Japan.

定置網での再捕獲が示唆するアカウミガメの交尾海域—沖縄島西海域の事例—

Repeated recapture as an indicator of the mating area of loggerhead turtles
-Case study in the set-net of western waters of Okinawa Island, Japan-

高橋優実¹・古堤桂太¹・中西 悠¹・河津 勲²

Yumi TAKAHASHI, Keita FURUZUTSUMI, Yu NAKANISHI, and Isao KAWAZU

はじめに

アカウミガメ *Caretta caretta* は摂餌海域から産卵場近隣の繁殖海域に回遊した後に交尾する (Miller, 1997). 雌は交尾から約 1 か月後に初期産卵を終え (小林, 2012), その後 2-3 週間の間隔をあけて砂浜を訪れ, 繰り返し産卵する (松沢, 2012).

交尾は産卵地近隣の沿岸域で行われていると予想されるが (Miller, 1997), 国内での野外における交尾の直接的な観察例は, 奄美大島の東シナ海側沿岸 (興, 2001), 宮崎県青島沖合 (西・大牟田, 2013) および沖縄島西海岸での求愛行

動の記録 (河津・岡部, 2014) が報告されているに留まる. この観察事例の少ない理由としては, ウミガメの野外調査が上陸産卵や漂着等の陸域での調査が大半であり, 交尾が行われる海域での調査は陸域ほど頻繁に行われていないことが挙げられる.

沖縄島西海域に設置された定置網では, アカウミガメを主としたウミガメ類が頻繁に混獲され, 1991 年から (一財) 沖縄美ら島財団が, 2012 年から琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーミーが主体となって混獲状況および標識放流の調査を実施してきた. その調査の中で, 短期間

¹ 琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーミー; E-mail t.yumi.pero11@gmail.com

² 一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センター (〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 888)

に雄のアカウミガメが繰り返し再捕獲された事例が 2010 年および 2014 年の 3～4 月に、各年 1 個体ずつ確認された。3～4 月は本種の交尾期にあたることから (河津・岡部, 2014), 再捕獲例を記録することは本海域のアカウミガメの繁殖生態を解明する上で重要であるので、ここに報告する。

材料と方法

再捕獲は沖縄島西海岸に設置された定置網で確認された (26° 22' N, 127° 42' E; 図 1)。この定置網は最も近い陸から約 1500m の場所に海岸に対して垂直に設置されており、全長約 360m、幅約 60m、水深は 40m、魚獲部は箱網と呼ばれる海面に開いた網形であった。混獲されたウミガメ類は近隣の漁港に輸送し、標準直甲長および甲幅を計測し、尾部伸長の有無を記録した。また、再捕獲個体を識別するために、前肢や後肢にインコネルタグおよびジャンボタグを装着した後には放流した。

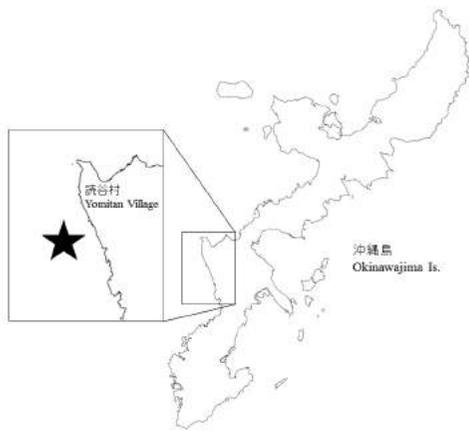


図 1. 調査地 (読谷村都屋定置の位置)。

Figure 1. Location of the Yomitan-son set-net (indicated by a black star), in which the loggerhead turtles that we examined were captured.

結果

事例 1 : 雄のアカウミガメ (標識番号 : 右前肢 JPN46636, 左前肢 JPN46616) は 2010 年 3 月 18 日から 4 月 2 日の間に計 4 回 (表 1), 繰り返し混獲され、その間隔は 3～7 日 (平均値 5 日) であった。この個体の標準直甲長および直甲幅はそれぞれ 877mm および、652mm で、尾部の伸長も確認された。高知県および三重県の定置

網で混獲されたアカウミガメでは、直甲長 821mm で半数が成熟する (Ishihara and Kamezaki, 2011)。このことから、本個体は雄の性成熟個体であると推測できた。さらに、4 月 2 日の混獲時には、網内で雄が雌へマウンティングしているのが漁業者によって観察された。

表 1. 定置網で繰り返し再捕獲された雄のアカウミガメ 2 個体の捕獲間隔。

Table 1. Inter-capture intervals of two male loggerhead turtles repeatedly recaptured by the set-net system.

| | | 年 Year | 混獲日 Date | | 初捕獲日からの日数 Days from first capture |
|-----------|------|--------|----------|----|--------------------------------------|
| 事例1 Case1 | 2010 | 3/18 | 18 March | 0 | |
| | | 3/23 | 23 March | 5 | |
| | | 3/30 | 30 March | 12 | |
| | | 4/2 | 2 April | 15 | |
| 事例2 Case2 | 2014 | 3/17 | 17 March | 0 | |
| | | 4/4 | 4 April | 18 | |
| | | 4/9 | 9 April | 23 | |
| | | 4/11 | 11 April | 25 | |
| | | 4/14 | 14 April | 28 | |

事例 2 : 雄のアカウミガメは (標識番号 : 右前後肢 JPN78439, JPN78440, 左前後肢 JP72898, JP98625), 2014 年 3 月 17 日から 4 月 14 日の間に計 5 回 (表 1), 繰り返し混獲され、その間隔は 2～18 日 (平均値 7 日) であった。この個体の標準直甲長および直甲幅はそれぞれ 891 mm, 671 mm であった。この個体も、Ishihara and Kamezaki (2011) の成熟甲長 (821mm) に準ずれば、性成熟個体であると推測できた。

考察

約 1 ヶ月という短期間の間に、雄の成熟したアカウミガメが定置網で 4～5 回も繰り返し混獲されたことは、これらの個体が定置網もしくはその周辺海域に固執したことを示す。固執する要因として、定置網でアカウミガメと同時に漁獲される魚類がアカウミガメの餌となり得ることが考えられる。しかし、繁殖海域に回遊してくる成熟したウミガメ類が摂餌をする事例もあるが (宮里ほか, 2015), 基本的に摂餌を控える傾向にある (石原, 2012)。この繁殖期の摂餌意欲の低下は飼育下の雄アカウミガメにおいても確認されている (木野ほか, 2013)。したがって、再捕個体が摂餌を目的に定置網で繰り返し混獲されたとは考えにくいと思われる。

一方で、河津・岡部 (2014) は沖縄島の西海岸において、船上からのアカウミガメの発見が 3 月にかけて多くなることや、3 月に求愛行動

中の雌雄のアカウミガメを観察したことを報告している。今回の両事例においても、混獲は3月から開始され、さらに事例1では、網内でマウンティングを確認した。したがって、定置網内へ繰り返し入網するという結果は、雄個体が交尾を目的として雌を求め、定置網やその周辺海域に滞在した可能性が示唆される。これらのことは、定置網が設置されている沖縄島西海域はアカウミガメによって交尾海域として利用されるという河津・岡部(2014)の結果を支持する。今回のような箱網を有した定置網にウミガメ類が混獲した場合、ほとんど死亡しない。このような生体をほとんど傷つけないサンプリングが海域において可能なのは、漁業大国である日本ならではの手法である。したがって、今後も本定置網での調査を継続し、他地域においても同様の調査を実施することで、雄のアカウミガメの生態解明に役立つ貴重なデータが得られると考えている。

謝辞

本調査を遂行するにあたり、第八よみたん丸の儀間勇人船長、乗組員の山田祐貴氏をはじめとする読谷村漁業協同組合の皆様にはデータ採集において多大なご協力を頂いた。また、本論文の編集にあたって、琉球大学ウミガメ研究会ちゅらがーみーの同期や先輩たち、および一般財団法人沖縄美ら島財団総合研究センターの方々には有益な助言を頂いた。ここに記し、感謝申し上げます。

引用文献

- 石原孝. 2012. 生活史 成長と生活場所. P. 57-83. 亀崎直樹(編)ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京.
- Ishihara, T. and N. Kamezaki. 2011. Size at maturity and tail elongation of loggerhead turtles (*Caretta caretta*) in the North Pacific. *Chelonian Conservation and Biology*, 10(2): 281-287.
- 河津勲・岡部晴菜. 2014. 沖縄島西海域におけるアカウミガメの交尾期. うみがめニュースレター, 100: 2-7.
- 木野将克・前田好美・真栄田賢・河津勲. 2013. 飼育下アカウミガメの活動量と摂餌意欲の年変動. 日本ウミガメ誌, 2013: 73.
- 小林真人. 2012. 飼育条件下におけるタイマイの繁殖に関する生態, 行動および生理学的研究. 水産総合研究センター研究報告, 36:

107-142.

- 松沢慶将. 2012. 繁殖生態 交尾と産卵. P. 115-140. 亀崎直樹(編)ウミガメの自然誌 産卵と回遊の生物学. 東京大学出版会, 東京.
- Miller, J. D. 1997. Reproduction in sea turtles. p. 51-81. In: P. L. Lutz and J. A. Musick (eds.). *The Biology of Sea Turtles*. CRC press, Boca Raton, Florida.
- 宮里俊輔・梅本巴菜・福川優希・宮本圭・河津勲. 2015. 繁殖期のアカウミガメ (*Caretta caretta*) によるハリセンボン科魚類の捕食例. うみがめニュースレター, 101: 2-4.
- 西隆一郎・大牟田一美. 2013. アカウミガメの産卵地固執性調査および子ガメの脱出モニタリング手法の開発. 鹿児島大学総合研究博物館 News Letter, 33: 20-22.
- 興克樹. 2001. アカウミガメの交尾の観察例. うみがめニュースレター, 50: 20.

SUMMARY

Two tagged male loggerhead turtles were repeatedly recaptured by a set-net system along the western coast of Okinawa Island (26° 22' N, 127° 42' E) during a short period (less than one month) in March–April of 2010 and 2014. The male turtle recaptured in April 2010 was mounting a female in the set-net at the time of capture. These observations indicate that reproductive active males remained in the waters around the set-net for the purposes of courtship and mating. This finding suggests that loggerhead turtles may utilize the western coast of Okinawa as a mating ground.

第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉 の開催報告とお礼

日本ウミガメ協議会 事務局

第26回目の日本ウミガメ会議は、初の関東圏となる千葉県一宮町で開催された。この一宮町では渡部明美さんと川上孝子さんが中心となる「一宮うみがめを見守る会」が上陸産卵数をモニタリングし、周辺地域の関係者を集めた外房ウミガメ懇話会を開催している。今年はウミガメ会議の歴史の中でも初の関東開催ということで、今までにはない様々な試みを行った。例えば、砂浜観察会は、砂浜での生物観察会と船上から洋上観察の2コースを設けた。生物観察会は、地元の方々から一宮海岸の動植物を解説して頂き、拾い集めた貝殻を図鑑のような下敷きを使って同定するなど、遊び心を取り入れた内容であった。洋上観察は、船の上から砂浜全景を展望した。参加者を歓迎するように何度もスナメリが登場する嬉しいハプニングもあった。会議中は、一般の人でも気軽に参加して頂けるように地元の写真家である中村氏の写真、小学生が描いたウミガメの絵、一宮海岸の生物相パネルなどを展示した。さらに、鴨川シーワールドからは出張ウミガメふれあい展をおこなって頂いた。以前から、ウミガメ会議の参加者からは生きたウミガメを展示したいという希望があり、ようやく実現することができた。これらイベントには約450名が参加し、今までのウミガメ会議の中で最多数となった。様々なイベントを実行できたのは、「都心から電車で一時間の場所でもウミガメが産卵に訪れる」ことを多くの人に知って欲しいという開催地域の方々のお気持ちによるところが大きい。

特別講演は、一宮海岸で40年間にわたりモニタリング調査をしてきた秋山章男先生にお願いした。秋山先生は元大学の教授でありながら、現在は自然をテーマにしたアーティストの活動を展開する、ちょっと変わった経歴の持ち主である。講演では、会場の壁を自ら作成した何十枚ものパネルで覆い尽くしてしまった。そして、パワーポイントでの解説だけでなく、参加者にクイズを与えてパネルから答えを探す、磁石を使って砂の鉄分の量をみせる実験など、参加者

が自ら考えて楽しめる内容であった。シンポジウムとして房総半島の方々による活動紹介をお願いした。九十九里浜はウミガメ産卵の北限域であるため、主要な産卵地からみれば産卵数はわずかであるが、調査者は地道なモニタリング活動を何十年も行っていた。数の大小に関わらず、ウミガメに対する熱意は全国共通で、そのおかげで砂浜の清掃が行われ、真剣に海岸浸食を考える人たちがいるのだと改めて思った。一般講演では全国から28題の口頭・ポスター発表があった。遺伝子や衛星発信機などの学会のような難しい発表から、ふれあい体験や産卵状況まで、ウミガメ会議らしい多様性ある内容であった。

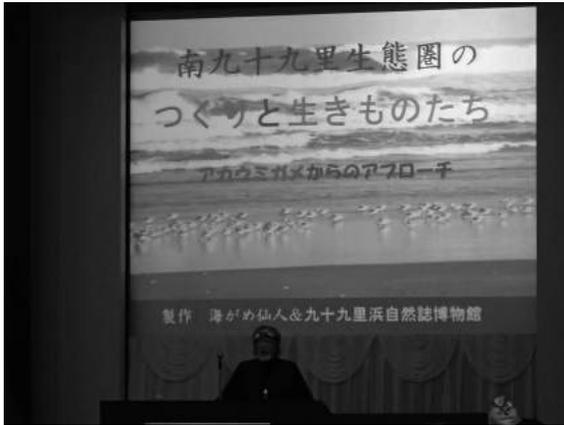
相変わらず、ウミガメ関係者は酒豪が多く、交流会や懇親会だけでは足りずに午前過ぎまでカメ談話が行われた。勝手にバスをコンビニに寄せ、消灯時間を過ぎてもお開きにならず、事務局としては悩ましい限りであった。産卵シーズンは毎日早朝や夜中の砂浜を歩くために深酒ができないウミガメ調査者にとって、この会議の夜は特別なのもかもしれない。

ウミガメ会議は皆さまのご協力がなければ開催することはできない。本会議は大塚商会の会長である大塚実氏による寄付が大きな支援となった。一宮町の玉川孫一郎町長をはじめ役場の方々には、実行委員会から会議の運営までご尽力いただいた。出張ウミガメふれあい展を快く応じて頂いた鴨川シーワールドの方々、特に大澤彰久氏には窓口となり当日も取り仕切って頂いた。出前授業では、檜崎友子さん、木下千尋さん、田中雄二さん、大野睦さん、東京海洋大学うみがめ研究会の皆さんにご協力いただいた。CULINAIREの中西一矢氏には今年もうみがめ誌のデザインやレイアウトをしていただいた。近畿日本ツーリストの重村氏、レースデザインの柏原氏には、仕事の枠をこえて融通を利かせて頂いた。ここに申し上げます。

過去、ウミガメ会議は産卵地にこだわってきたが、時代の流れとともに活動の分野も広がっ

てきた。来年の開催地である高知県室戸市は、過去 10 年以上にわたり定置網での混獲調査が継続され、ウミガメ関係者の憧れであるオサガメをはじめジンベイザメ、メガマウスなど魅力

的な動物が確認されている場所である。海域調査の先駆地で、どのような話が聞けるのか今から楽しみにしている。



秋山章男博士による特別講演



秋山先生作成のパネルを見る参加者



鴨川シーワールドによる出張ウミガメふれあい展



会場の様子（三日目）



稲花酒造で行われた交流会

開催期間：2015年11月27～29日
場所：千葉県一宮町
ホテル一宮シーサイドオーツカ

2015年ウミガメ速報

A Circular Notice on Sea Turtles in 2015

日本ウミガメ協議会

Sea Turtle Association of Japan

(2015年内に配信されたウミガメ速報を掲載しています。)

■ウミガメ速報 15-1 (1/30)

高知県甲浦漁業協同組合より (12/21)

2014年12月21日に高知県安芸郡東洋町甲浦漁港沖の小型定置に生きたウミガメが混獲されました。事務局より：室戸基地の河野と田中が調査を行いました。体サイズは甲長44.0cm、甲幅37.7cmのアオウミガメでした。標識番号は90880と90989と100614です。2014年4月8日に高知県室戸市椎名大敷の定置網に混獲され2014年7月7日に高知県室戸市高岡漁港から放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長40.8cm、甲幅は35.2cmです。調査後漁港内から放流しました。

高知県 かわぐち様より (12/26)

2014年12月26日に高知県室戸市羽根町羽根漁港内に腐敗したウミガメの死体が漂着していました。事務局より：室戸基地の河野と田中が調査を行いました。体サイズは甲長39.3cm、甲幅32.5cmのタイマイでした。体内にガスが溜まり体が膨張していました。頭部の鱗板が剥がれ落ち一部白骨化していました。

宮津エネルギー研究所水族館 吉田様より (1/5)

京都府宮津市養老地区の中型定置網に入ったウミガメの死亡個体についてお知らせします。発見日：平成27年1月5日午前、場所：京都府宮津市養老、発見状況：沖合いに設置されている中型の定置網の袋網内で死亡している個体を発見。定置網の袋網に入って浮上できず溺死したのではないかという推測をしています。ウミガメ個体の情報 甲長：53.0cm、甲幅：49.5cm、体重：16.3kg。タグは2箇所についていました。左前ヒレ：JP88561、右後ヒレ：JP88562。大きな傷等はありませんでした。事務局より：2013年12月24日に美方町日向の定置網に混獲された個体で、2014年7月14日に福井県坂井市三国町浜地海岸にて越前松島水族館が放流したアオウミガメでした。放流時の体サイズは甲長45.0cm、甲幅37.0cmでした。

千葉県農林水産部農林水産課 加藤様より (1/5)

2014年1月5日に千葉県南房総市の白浜でウミガメが死んで浜に打ち上げられていたのを、南房総市の市民の方が発見しました。大きさは発見者の方曰く、1mくらいだそうです。

うみがめニュースレター編集委員会より (1/28)

うみがめニュースレター100号発刊：日本ウミガメ協議会の支援の下発行を続けている「うみがめニュースレター」の最新号が発行されました。ちょうど100号の節目となる今号には、1本の原著を含めた6本の報告が掲載されています。モノクロですが、それぞれに貴重な写真も掲載されていますので、是非ご覧ください。「沖縄島西海域におけるアカウミガメの交尾期」河津 勲・岡部 晴菜、「沖縄県屋我地島に漂着したヒメウミガメ*Lepidochelys olivacea*の幼体」木野 将克・河津 勲、「ウミガメに残る咬み痕からイタチザメのサイズを推定する」富田 武照・戸田 実、「鹿児島県口永良部島で初めて確認されたアオウミガメの上陸・産卵」小林 宏至・大牟田 一美・後藤 利幸、「産卵回帰年数が1年のアカウミガメ：沖縄島国頭村謝敷からの初記録」河津 勲・嘉陽 宗幸・前田 好美「右後肢が欠損したアカウミガメの産卵記録」嘉陽 宗幸・河津 勲。

大阪事務局より (1/30)

NHK総合でオサガメの番組が放映されます2月1日 19:30~20:00 NHK総合テレビの人気番組「ダーウィンが来た！」で、「大西洋縦断！世界最大のウミガメを追え」と題して、オサガメの番組が放映されます。第12回日本ウミガメ会議高鍋会議の招待講演者スコット・エッカート博士の協力により、カリブ海の島国トリニダード・トバゴを主な舞台に、オサガメの生態に迫ります。制作を担当した小山ディレクターが、12年間も取材を続けてまとめた大作です。ウミガメ協議会も協力しています。是非、お見逃しなく！（松沢）

大阪事務局より (1/30)

オサガメの写真集が出版されましたNHKの番組放映と示し合わせたかの如く、昨年、12月にオサガメの素晴らしい写真集が出版されました。「海に憧れる Leatherback Sea Turtle ~神秘のオサガメを追って~」来住尚登著定価2,052円（本体価格1,900円）トリニダード・トバゴの産卵地で撮影された、迫力ある写真に、オサガメの生態に関する解説や、著者のエッセイも添えられています。オサガメの産卵観察に出かける人にとっては最適のガイドブックです。監修は、不肖、松沢が担当しました。アマゾンで絶賛発売中。事務局でも扱っています。是非、お買い求めください。（松沢）

■ウミガメ速報15-2(2/23)

 エビとカニの水族館 平井様より(1/7)

11月にアオウミガメの混獲がありましたのでお知らせします。2個体分です。1. 種名:アオウミガメ、生死:生存混獲日:2014年11月1日混獲場所:和歌山県すさみ町周参見 小泊?イセエビ刺網、測定日:2014年11月2日、直背甲長:40.3cm、直背甲幅:37.8cm、体重8.6kg、放流日:2014年11月3日、放流場所:和歌山県すさみ町すさみ沖 船上よりタグNo.:右後肢 白26536、左後肢 白26537、備考:外傷なし。右縁甲板、欠損有り。2. 種名:アオウミガメ、生死:死亡、混獲日:2014年11月20日、混獲場所:和歌山県すさみ町周参見小泊 ?イセエビ刺網、測定日:2014年11月20日、直背甲長:44.2cm、直背甲幅:35.5cm、体重12.5kg
 備考:眼部出血有り。その他外傷なし。

 愛媛県立とべ動物園 前田様より(1/7)

昨日、四国中央市でウミガメの死体が漂着しました。頭の高さからみるとアカウミガメかと思われます。漂着場所は河川の河口です。事務局より:写真を見つけたところアカウミガメでした。

 高岡大敷漁師 山下傑様より(1/7)

高知県室戸市高岡漁港内に死亡したアオウミガメが漂着しました。事務局より:室戸基地の河野と田中が計測を行いました。甲長59.9cm、甲幅47.8cm、体重26.8kgで標識はついていませんでした。体内は腐敗が進んでおり後ろ脚の周囲がフィプロパピロマに覆っていました。

 西表自然保護官事務所 日名様より(1/19)

ウミガメの漂着個体(死亡)が2個体分、発見されたので報告します。発見日:2015.01.18、場所:西表島南風見崎を西に30m位歩いたところと50m位歩いたところ、大きさ:いずれも目測40cmくらい、種別:アオウミガメ一方の個体の甲羅に赤いペンキの様なものがついていました。事務局より:写真を見つけたところ、赤いペンキは船底塗料かと思われます。

 琉球大学ちゅらがーみー 古堤様より(1/21)

浦添市いなんせ会館付近で漂着個体を発見しました。足に奇形が見られたりと興味深い個体でした。発見日:2015年1月20日、種:タイマイ、性別:オス SCL:73.6cm、MCL:71.4cm、SCW:52.6cm発見場所:沖縄県浦添市伊奈武瀬いなんせ会館付近、特記事項:左後肢に奇形が見られた

 宮崎県 クロキ様より(1/21)

昨日、宮崎の日南海岸にウミガメが漂着していました。標識が2つ着いていて一つは青色で64100と書かれていました。もう一つは協議会の名前が書いてあり番号は確認していません。事務局より:このウミガメは高知県室戸市椎名大敷にて混獲され、2014年11月1日に放流したオスのアカウミガメでした。直甲長92.1cm、直甲幅71.0cm、体重113.4kgで、標識番号は52734、64100、64073です。

 (株)オキナワマリンリサーチセンター 森脇啓理様より(1/17)

本日当社内のビーチにウミガメが漂流致しましたので、ご報告いたします。発見日:2015年1月17日、発見状況:漂流、カメの状態:衰弱、外傷:なし、種:タイマイ、標準直甲長:20.5cm、最小直甲長20cm、直甲幅:17.5cm、体重:約1.2kg、甲羅に海藻が付着していました。

 いちき串木野市市役所 宇都口様より(1/21)

2014年の11月ごろに羽島漁港沖で漁船の網にタグだけが絡まっていた。タグの番号は青97642(タグのオス部分のみ)です。事務局より:昨年6月に降に野間池で付けられたタグです。

 徳島県 住民の方より(1/27)

徳島県鳴門市の海協食堂うずしおの真横の海岸でウミガメが死んでいました。アカウミガメにみえます。事務局より:直甲長77cm、直甲幅73cmのアカウミガメでした。右前肢、尾は欠損、体もガスで膨れていました。標識タグはついていませんでした。

 沖縄県 匿名の方より(2/1)

南城市玉城で大きなウミガメの死体を見つけました。事務局より:琉球大学ちゅらがーみーOBの宮里が調査を行いました。直甲長94.1cm、直甲幅70.2cmのオスのアオウミガメでした。背甲にスクリー痕と思われる傷がありました。

 琴引浜鳴き砂文化館 久保様より(2/3)

2015年2月3日午後2時頃に琴弾浜の潮だまりに漂着していたアカウミガメの幼体を発見しました。甲長13cm程でわりと元気な様子です。水槽に海水とお湯を混ぜた物を入れ、館内で一時的に保護しています。

 沖縄県 栗原好延様より(2/5)

昨日、ウミガメの死骸を見つけましたのでご連絡させていただきます。日時:2015年2月4日13時15分、場所:海中道路に入って200mあたり。事務局より:琉球大学ちゅらがーみーの古堤が調査を行いました。甲長40.6cm、甲幅33.0cmのアオウミガメでした。

 神奈川県 岡田真人様より(2/7)

2015年1月19日~1月20日に千葉県館山市伊戸海岸を散策していると複数個体のウミガメの骨を発見しました。2月6日~2月7日にも同じ海岸でウミガメの骨を見つけました。

 山口県 澄岡清様より(2/10)

50年も前のことですが先週NHKで放送された「ダーウィンが来た!」を見て、オサガメだとわかったのでお知らせします。50年位前に山口県萩市のななつべの建網に見たこともないくらい大きなウミガメが混獲されました。溺死していたので4人がかりで浜まで引っ張り上げました。とても大きい上におなじみの甲羅がなく、かわりに数本のスジのような山があり、初めて見るカメに驚いた事を覚えています。

浜からももう少し陸に上がったところに、埋葬し、寺の住職を呼び、経をあげ供養しました。その際カンドク(御神酒を入れる専用容器)に酒を入れ、一緒に埋めました。もともと地元の漁師の間では、ウミガメは竜宮様の遣いといわれており、生きて混獲された場合は、酒を飲ませ、海に帰していました。大人達はカメに酒を飲ませ、バタバタして海に帰る様子を「喜んでいる」と言っていました。幼かった私には苦しめるようにも見えました。

山形県 阿部真紀様より (2/10)

1月25日14時頃、山形県鶴岡市由良海岸でウミガメの漂着死体を見つけました。その後気になり、本日時間ができたので、改めて由良海岸に行ってきました。冬の日本海は連日荒れているので、まだウミガメがいるか疑問でしたが、少し移動しただけで流されていませんでした。事務局より：写真を拝見したところ、甲長20-30cmほどのアカウミガメでした。

鳥取県立博物館 一澤様より (2/10)

昨日、鳥取県内でウミガメが漂着したとの報告が入りました。発見日は2月7日、場所は鳥取県琴浦町内の八橋海岸です。大きさは30cm程度で、タイマイと思われま。個体は発見時すでに死亡しており、タグなどは見当たりませんでした。

串本海中公園センター 吉田徹様より (2/11)

標識個体漂着の連絡がありましたのでお知らせします。発見日時：今朝、発見場所：新潟県胎内市荒井浜海岸、発見者：散歩中の地元住民、種：アカウミガメ、雌雄：不明、サイズ：甲長20~25cm(目測)、標識番号：JPN12219、状態：死亡漂着、海岸を散歩中の地元の方が発見し連絡して頂きました。外傷は特に見られず、状態は比較的きれいで死後それほど経過していない様とのこと。事務局より：新潟市水族館が放流した個体でした。2012年7月15日 新潟市北区太夫浜海岸で産卵→新潟市水族館で保護。2014年8月22日 新潟市信濃川河口沖約10kmより放流。<放流時計測値>標準直甲長：24.4cm、直甲幅：21.4cm、体重：2.79kg、標識：12219/12220

西表野生生物保護センター 日名耕司様より (2/12)

ウミガメの漂着個体(死亡)が発見されたので報告します。発見日：2015年1月24日、発見者：岡さん(地元)、場所：内離島と外離島の間(通称シラス浜)、種別：アオウミガメ、フィプロパピロマに罹っていました。

徳島新聞より (2/11)

美波町の大浜海岸で2014年、アカウミガメが産んだ卵のふ化率は62%だったことが、日和佐うみがめ博物館カレッタの調査で分かった。夏場の長雨の影響で海岸の砂の温度が上がり過ぎず、ふ化に適した28~30度に保たれたこともあり、2013年の35.2%から大幅に上昇した。7匹が産卵した17カ所を2014年9月~2015年2月に掘り返した結果、1831個の卵のうち、1134個がふ化していた。調査を始めた1996年から2013年までの平均ふ化率58.5%を3.2ポイント上回っ

た。17カ所のうち、高波による流失を防ぐため、カレッタの人工ふ化場に移した4カ所のふ化率は58%。海岸の13カ所は63%だった。カレッタの田中宇輝学芸員(29)は「例年並みのふ化率に戻って安心した。周辺施設の消灯時間を早めるなど海岸の明るさ対策を進め、来季のふ化率も良くなれば」と話した。ふ化率調査は、海に戻った子ガメの数や海岸の環境が産卵に適しているかを調べるため、毎年行っている。

先日放送された【ダーウィンが来た】ではオサガメが紹介され、その中でクロウミガメはアオウミガメとは別種と放送されました。会員の方から、アオとクロは亜種ではないのか、という質問がありました。実は、このアオとクロを別々の種として扱うかは、人によって意見が異なります。クロウミガメの経緯は下記の1・2・3の流れです。1. クロウミガメが新種として記載された。2. 遺伝的な研究で、アオとほとんど変わらず、アオの亜種とされた。3. 近年、クロとアオの甲ら詳細に計測したところ、一部がアオとはっきり区別できた。昔は形態の【あるorなし】によって種が判断されていました。例えばイワシとアジの違いは「ゼイゴ」の有無です。この考えではアオとクロは別種になります。しかし、遺伝的な研究ができるようになって変わりました。見た目が違っても、遺伝子がほとんど変わらない動物が見つかったからです。遺伝は形態と違って【あるorなし】での判断が難しく、どのぐらい違えば別種とするのか、人によって意見がわかれます。このため上記に2. の考えでアオとクロは同じ種として扱われました。ところが最近、3. の成果により、やっぱり別種にした方が良いのではないかと議論になっています。このように研究が進むと、今まで別種だったものが同じ種になったり、同じ種として扱われてきたものが、別の種に分けられたりします。(亀田)

■ウミガメ速報15-3 (4/3)

沖縄県 松尾奈々様より (2/12)

今朝瀬長島にウミガメが漂着していました。しかし、15時ごろ再度瀬長島に見に行ったところカメが流されていました。

のとじま臨海公園水族館 池口新一郎様より (2/16)

石川県かほく市海岸にアオウミガメの死体が打ちあがっていました。

村岡実様より (2/19)

本日、アオウミガメのストランディングがありましたので、情報提供いたします。漂着場所：鹿児島県薩摩川内市寄田(よりた)海岸。甲長85cm、甲幅75cmでした。処理方法：近くの砂地に埋設。

神奈川県 岡田真人様より (2/23)

千葉県館山市伊戸海岸にて複数のウミガメの骨格を発見しました。なかには前回見つけた骨格と同一個体の物と思われる骨もありました。

野間池の宮内様より (3/2)

野間池にて2個体混獲があったのでお知らせします。

●1頭目 日時：2015/2/3。カメの種類：アカウミガメ。タグ：青97316(ひとつのみ)。SCL：68.2、MCL：67.1、SCW：55.9、CCL：72.0。●2頭目 日時：2015/2/28。カメの種類：アカウミガメ。タグ：青73785、7378■(読み取り不可能)。SCL：80.1、MCL：79.2、SCW：62.5。事務局より：標識番号を確認したところ1頭目は2015年1月7日に徳島県海部郡海陽町鞆浦大敷にて混獲され2015年1月11日に徳島県海部郡美波町大浜海岸から放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長67.9cm、甲幅56.3cmです。2頭目は2010年7月6日に室戸岬町高岡大敷で混獲され放流した個体でした。放流時の体サイズは甲長77.0cm、甲幅64.1cmで体重73.2kgでした。性別はメスで標識番号は73785と73784です。

のとじま臨海公園水族館 池口新一郎様より (3/13)

ウミガメを保護しましたのでご報告いたします。昨日海岸にウミガメが漂着していたと地元の方から連絡がありました。現任時はテトラポットの間に地元民が移動させていました。種はアオウミガメで、体サイズは甲長46.0cm、甲幅40.0cmです。

エビとカニの水族館 平井厚志様より (3/14)

2015年2月22日に和歌山県すさみ町内海岸においてアオウミガメのストラレンジングがありましたのでデータをお送りします。発見日：2015年2月22日。発見場所：和歌山県西牟婁郡すさみ町見老津海岸。種：アオウミガメ(死)。測定日：2015年2月22日。直背甲長：67.2cm。直背甲幅：56.5cm。標識なし。解剖後埋設。頸部および右前肢に釣り糸(延縄)が巻き付いた状態で海岸に打ち上げられており、釣り糸は口腔内に繋がっていました。頸部の釣り糸はきつく締め付けられ裂傷がみられ、頸部からつながる糸が口腔内を通り小腸にまで達していました。餌の付いた延縄の釣り針を飲み込んだものと推測して口腔から肛門まで開いてみましたが釣り針はありませんでした。

福井県 田中俊之様より (3/21)

アカのストデータです。発見日：2015/2/16。発見場所：福井県敦賀市白木海岸。甲長：11.3cm。甲幅：9.8cm。体重：230.5g。フジツボ付着。地元ビーチコーマーの方が発見。

読売新聞より (4/1)

鹿屋市の高須海水浴場近くに、ウミガメの卵の保護施設「カメのゆりかご」が完成し、現地で披露式が行われた。市職員や住民らが卵を守り、孵化ふかしたウミガメの赤ちゃんを放流する活動の拠点となる。同市の高須地区や浜田地区には、アカウミガメが産卵のために上陸する。市生活環境課によると、市内の2014年の上陸回数は29回。うち産卵回数は13回で、記録が残る2005年以降最多となった。ただ、海が荒れて浸水する場所に卵が産み付けられた場合、死滅する可能性が高い。産卵の増加によって、両地区の小学校の保護施設だけでは手狭になったことな

どから、市が436万円かけて新たな施設を整備した。施設は6メートル四方のフェンスに囲まれている。花壇のようにブロック塀で枠をつくり、その中に、卵を埋めるための砂を入れた。披露式には、高須、浜田両地区の住民ら約30人が出席し、テープカットして完成を祝った。市生活環境課は「地元の住民や児童にも協力を求めながら、保護観察を続けていきたい」としている。

4月にはいり、そろそろ初産卵の声が届くころです。漁師からはアカウミガメが確認できる季節になったという声もあります。皆様も砂浜が気になってきた時期ではないでしょうか。是非 初産卵の情報をお待ちしております。(亀田)

■ウミガメ速報15-4(4/14)

座間味から初産卵の便りが届きました!

沖縄県 藤本様より (4/5)

石垣市に住んでいる者です。本日昼ごろ、子供と海に行っていた道中、子供が車の窓から外をみていて「ウミガメ!」と、喜んで走って見に行きましたが、残念なことに死体でした。甲羅の下部が挫傷している以外は、綺麗な状態でした。子供と手を合わせ、情報の為写真だけ撮らせてもらいました。場所は崎枝。赤崎あたりになるのでしょうか?また、綺麗な海に生まれ変わってきてほしいと心から願います。子供達もこれからも沢山の、ウミガメや生き物達に出会えますように。地球に感謝して。事務局より：写真を拝見したところアオウミガメでした。

熊本県 大西かずもと様より (4/6)

昨日の夜待ち網にウミガメがかかっていた。肢に数字の書かれたプレートがついていたので数字を記録しウミガメを海に放流しました。発見したのが夜中だったためウミガメの種類などはよくわかりませんでした。標識番号：96315。事務局より：標識番号を確認したところ室戸基地より放流した個体でした。発見日：2013年6月27日、発見場所：高知県室戸市室戸岬町 三津大敷 発見状況：混獲(待ち網)、種類：アオウミガメ。標識：インコネル(90438・90439)プラタグ(96314・96315)サイズ：甲長40.7cm、甲幅34.0cm、体重9.66kg

鳥取県水産振興局水産課 渡辺秀洋様より (4/8)

平成27年4月8日午前8時40分に鳥取県水産試験場に地元の方から米子市夜見の砂浜にてウミガメが漂着しているとの連絡がありました。午前9時に当場職員が現地にて引き取り、当場に持ち帰り保護しました。衰弱していたため、飼育施設の整っている島根県立しまね海洋館「アクアス」へ移送することになりましたが、残念ながら到着時、死亡が確認されました。種類：アオウミガメ、甲長：66cm、甲幅：40cm

座間味ウミガメ会 (4/11)

座間味にて今シーズン初の産卵が確認されました。ザマミュヒナにてケラマカヤックセンターが3月30日にカヤックからウミガメの足跡を確認しました。連

絡を受けた琉球大学ちゅらがーみーが、4月11日に現地
で卵を確認。卵径が40mmを超えていることからア
オウミガメと推察しています。

■ウミガメ速報15-5 (4/19)

屋久島と沖縄島でも初産卵が確認されました！

和歌山県漁業者 山下浩一様より (4/15)

刺し網にウミガメがかかっています。ウミガメ
自体は死亡していたので、右後ろ肢についていた標
識タグを取り外し番号を確認しました。標識：
JP76798事務局より：2010年に産まれ、2012年に父島
にて放流した個体でした。

NPO法人屋久島うみがめ館 大牟田一美様より
(4/17)

昨日、屋久島で今シーズン初のアカウミガメの上
陸及び産卵を確認しました。日時：2015年4月16日、
場所：屋久島 前浜種類：アカウミガメ

和歌山県漁業者 山下浩一様より (4/17)

一昨日にもウミガメを発見し連絡した者です。本
日も刺し網にウミガメがかかっています。今度の
ウミガメには標識はついていませんでしたが、ウミ
ガメ協議会にも知らせておこうと思い連絡しました。

琉球大学ちゅらがーみーより (4/17)

アカウミガメの産卵跡を4月12日に確認しました。
場所は沖縄県の国頭村の安田(あだ)の浜です。今
年最初の産卵です。

■ウミガメ速報15-6 (5/16)

越前松島水族館 稲木明浩様より (4/18)

今年冬のウミガメの漂着状況について御報告して
おきます。平成27年2月27日の朝、福井県の南越前町
の河野海岸において地元の方が直甲長35cm、甲幅
27.9cm、体重3.11kgのタイマイの死亡個体の漂着が
ありました。腹部はかなりへこんでおり、衰弱して
死亡したものと思われます。解剖等は行っておりま
せんので胃内容物等詳しい状況は分かっておりませ
ん。今年の冬に関しては、その他の情報はなく、昨
年、一昨年に比べるとウミガメの漂着は少なかった
ようです。

沖縄県 観光客より (4/22)

竹富島のアイヤル浜から左へ15分いった所にウミ
ガメの白骨化した死骸がありました。大きさは50~
60cm位です。

須磨海浜水族園より (4/25)

先日、明石市にてアオのストランディングがあり、
調査してきました。発見日：2015年4月23日、計測
日：2015年4月24日、発見場所：明石市大蔵海岸。
種：アオウミガメ、性別：不明、サイズ：
SCL453mm MCL448mm SCW351mm備考：解剖し

ましたが、内臓は原形をとどめておらず、生殖腺も
同様に雌雄判別はできませんでした。消化管内容物
だったと思われる海草(マクサ?)が体内に残って
いました。

沖縄県 観光客より (4/25)

竹富島で弱ったウミガメを見つけました。衰弱し
ておりお尻が浮いてうまく泳げない様子でした。事
務局より：黒島研究所にて保護しました。大きさは
甲長46.2cm、甲幅38.7cm、体重11kgでした。

徳島新聞より (5/1)

美波町日和佐浦の大浜海岸で1日、今年初めてアカ
ウミガメの上陸と産卵が確認されました。産卵は、
町に記録が残っている1973年以降では最も早かっ
たです。午前6時半ごろ、海岸を散歩していた町職員の
外磯千博さん(40)=日和佐浦=が、波打ち際から
約40メートルを往復した足跡と、防潮堤から約10メ
ートルの地点に穴を掘った跡を見つけました。1日未
明から早朝の間に上陸・産卵したとみられます。日
和佐うみがめ博物館カレッタの職員が砂を掘り起こ
し、卵を確認しました。足跡から、ウミガメは小型
で100個前後を産卵したと推定されます。7月上旬に
ふ化する見込みです。これまでに最も早かったのは、
上陸が91年の5月1日、産卵は82年の5月10日でした。
5月25日に初確認された2014年は32匹が上陸し、21匹
が産卵でした。カレッタ職員田中宇輝さん(29)=
日和佐浦=は「高い海水温が上陸を早めたのではな
いか。このペースで今年も多くのカメに上陸してほ
しい」と期待しています。

株式会社ヨロン島 関口様より (5/8)

与論島にて産卵上陸がありましたので報告いたし
ます。私がチェックをしている店の前の砂浜では今
年初産卵です。発見日時:5/8朝、場所：パラダイスビ
ーチ、足跡：交互のタイプ

NPO東洋コウモリ研究所 小柳恭二様より (5/9)

今春、遊びでGW中鹿児島県肝属郡肝付町岸良海
岸に釣りに行きました。その際に、砂浜でアカウミ
ガメの死体を発見しましたので連絡します。腐食が
激しく、観光用レンタカーでの運搬は難しいため、
死体は浜に埋めておきました。確認日:2015年5月3日、
場所：鹿児島県肝属郡肝付町岸良海岸種：アカウミ
ガメ、測定値(cm)：45×25(甲長×幅)

千葉県 根上様より (5/10)

こんにちは。館山市波佐間海岸で漂着がありまし
た。だいぶ時間が経過しているようです。事務局よ
り：写真を確認したところアカウミガメでした。

神奈川県 岡田真人様より (5/10)

4月25日に千葉県館山市伊戸海岸にて複数のウミガ
メの骨を見つけました。1. 枯れた川の出口にかたま
ってありました。肩甲骨のようです。2. 崖のそばに
ありました。カメフジツボの破片も見つけました。
3. 漁港の横からはじめて湾の西側まで歩き、漁港の
東側の小さな湾を探して、さらに平砂浦に移動しま

した。ホテルのそばにありました。4. 何となくカメホネぼいので、回収しましたが、どこの部位かはわかりません。

波崎愛鳥会 とわもと様より (5/11)

一般の方よりウミガメの漂着死体があったと連絡がありました。茨城県神栖市波崎第5ヘッドランドの波崎寄り200~300mです。

高知大学大学院 和田真央子様より (5/11)

こんにちは。アオウミガメの漂着がありましたので報告させていただきます。今年も5月7日から早朝の足跡痕跡調査が始まり、元気に砂浜を歩いています。今回の個体は、その足跡痕跡調査時に発見したものです。発見者は私で、担当区間を歩いて調査しているときに、波打ち際に漂着しているのを発見しました。発見日時：2015年5月11日午前5:00ごろ、発見場所：仁ノ海岸（仁淀川河口東側）種：アオウミガメ、体サイズ：SCL 36.8cm, SCW 30.2cm

福津市うみがめ課 大藤孝基様より (5/15)

5月14日に、本市白石浜海岸にてアオウミガメのストランディングがありました。発見日時：平成27年5月14日(火)6時00分頃、発見現場：福岡県福津市白石浜海岸、発見者：福津市民、確認日時：平成27年5月14日(火)9時30分頃、現認者：福津市うみがめ課、対応：福津市民より白石浜海岸にウミガメの死体が漂着しているとの通報がありました。死体は腐敗が進んでいました。状況を確認後、埋葬しました。種別：アオウミガメ、性別：不明、標準直甲長：495mm、直甲幅：425mmタグ：無、フジツボ：無、外傷：有

黒島から若月が書きます。

各地から産卵の報が届いておりますが、皆さまのフィールドではいかがでしょうか。さて、6月1日の夜、日本テレビの「月曜から夜ふかし」という番組に亀田が出演します。亀崎前会長が抜けた今、名乗っただけで笑いを取ることができる貴重な「亀」名字である亀田。一体どういじられるのか、何をしゃべるのか。私も楽しみです...。残念ながら沖縄には日本テレビのチャンネルがありません

■ウミガメ速報15-7 (6/12)

日和佐うみがめ博物館カレッタ 田中宇輝様より (5/16)

再発見の情報。本個体は、昨年2014年5月23日に鞆浦漁港で混獲され、翌日、大浜海岸より放流した個体です。牟岐地区周辺は、伊勢エビ漁が盛んで、日和佐の方がまだ刺し網が少ないなどの理由で、牟岐からもよくアオの亜成体を預かります。しかし日和佐で放流した個体も、木岐やら日和佐やらでエビ網にかかって死亡することがよくありますし、牟岐に戻ってかかって、死んでしまうカメもいます。牟岐の人曰く室戸の方が、安全とおっしゃっていたので、高知の方に流れてほしいと願っていましたが、高知に流れても結局かわらない結果となってしまいま

した。以下個体情報になります。2014年5月23日に鞆浦大敷にて混獲。翌日に大浜より放流。直標準甲長36.1cm、直甲幅31.8cm、体重7kg、標識タグ 右前肢90521。頭が少し擦りむけていましたが、特に問題ないと思い、放流しました。

公益財団法人しまね海洋館 村上昌吾様より (5/17)

今朝、大田市久手の定置網にアカウミガメ（と思われる）が混獲されたとの情報がありました。両前肢に青色の標識があり、左肢には電話番号が書かれていたそうです。右肢は読めなかったそうです。また後肢にも金属のタグがついていたようですが、こちらも読めなかったそうです。ウミガメ協議会のタグではないようです。

徳島新聞様より (5/18)

アカウミガメの産卵シーズンを前に、美波町観光協会は17日、同町日和佐浦の大浜海岸周辺で、ウミガメ上陸の祈願祭を初めて開いた。関係者ら50人が参加し、近年低迷している上陸数の増加を願った。海岸近くの日和佐うみがめ博物館カレッタ前で神事があり、日和佐八幡神社の永本金二宮司（65）が祝詞を奏上。町をPRする乙姫大使や浦島大使らが玉串を奉納した。町のPRキャラクターかめたろうやかめじろう、ゆるキャラの「えび〜太くん」らも参加し、来館者と記念撮影するなどして会場を盛り上げた。同海岸での上陸数は1996年、前年より85匹少ない34匹に激減。以降は最大でも61匹の上陸にとどまっている。祈願祭はカレッタが開館30年を迎えることもあり企画した。江本友昭会長（60）は「住民が中心となって海岸の清掃を行い、産卵しやすい環境は整っていると思う。多くのウミガメが産卵に来てほしい」と期待していた。

福津市うみがめ課 宮本様より (5/19)

アカウミガメのストランディングがありましたので、報告します。平成27年5月10日(日)15時頃に福津市民より白石浜海岸にてウミガメの死体が漂着しているとの通報があり、現場を確認。左脚が欠損していました。種別はアオウミガメで、性別は不明です。直標準甲長は73.0cm、直甲幅は61.0cmでした。標識タグはついておらず、外傷もありませんでした。確認後、ポケットリーダーによるインナータグの確認及び計測等を行ったのち埋設しました。

ジオガイドの会 千頭利智様より (5/19)

5月18日11時頃、ジオガイドの最中に室戸岬観光道、通称「ダービタイト」にてウミガメの死骸を発見しました。室戸基地に連絡しなくては、と思い、室戸市ジオパーク推進課に連絡し、室戸基地に繋いでいただきました。事務局より：連絡を受けた室戸基地の渡辺が確認を行いました。種類はアオウミガメで、頭がなく腐敗が進んでいたため、写真のみ撮影し、埋設しました。

徳島新聞様より (5/22)

阿南市椿町の蒲生田海岸で22日、今年初めてアカウミガメの上陸が確認された。産卵はしていない。

同海岸は昨年、上陸回数が調査を始めた1954年以降で最も少ない3回にとどまった。初上陸はここ10年で2番目に早く、海岸の清掃活動を例年より前倒しして行うなど、上陸を心待ちにしていた住民は「今年こそ多くのウミガメに来てほしい」と期待を寄せている。午前6時半ごろ、ウミガメ監視員の女性(66)が、波打ち際から砂浜に約70メートル続くウミガメの足跡を見つけた。市職員が確認したところ、足幅は約70センチで中型のアカウミガメとみられ、産卵場所を求めて上陸したものの産卵には至らなかったと判断した。同日早朝に上陸したとみられる。同海岸は県内有数のアカウミガメの上陸地で、例年5月下旬から上陸し始め、7月ごろにピークを迎える。2012年の上陸回数は県内最多の43回(産卵は23回)に上った。しかし、14年は過去最少となり、保護や調査活動を続けている地元の住民、小中学生らから落胆の声が上がった。このため、同市蒲生田、伊島、椿泊、椿の各地区の自然保護に取り組む住民団体「KIT賞賛推進会議」は17日、毎年6月第1日曜日に実施していた海岸の一斉清掃を前倒しして実施。周辺住民や市内の高校生ら約150人が参加した。6月7日には椿町中学生が清掃活動を行う。KITウミガメ部会の鎌田武部会長(86)は「きれいになった海岸に、多くのウミガメに上陸してもらいたい。今回上陸したウミガメも、再びやって来て産卵してくれると願っている」と話している。

高知県 溝渕幸三様より(5/22)

四万十市名鹿浜にウミガメが産卵しました。楠本氏が確認。足跡の幅約80cm、卵の直径3.9cm、卵数は142個でした。

鹿児島県 中尾和成様より(5/22)

本日7時30分ごろ、網に標識タグをひっかけたカメを発見しました。カメ自体は放流したのですが、標識タグが残っていたので報告します。場所は、南さつま市笠沙町。標識タグの番号は7042です。事務局より：2015年5月10日に野間池から放流されたものでした。放流時の体サイズは甲長90.0cm、甲幅68.1cmです。

高知県 溝渕幸三様より(5/23)

5月23日、大岐浜にウミガメが初上陸しました。岡田幸生さんと吉本康二さん、それに私が探しましたが、卵は見つかりませんでした。砂の中に木切れやゴミがいっぱい埋まっており、その影響で諦めたものかもしれません。

沖縄県 平良正良様より(5/23)

黒島の伊古棧橋沖でウミガメが3頭網にかかりました。事務局より：黒島研究所の若月と濱田が連絡を受け、計測を行いました。3個体ともアオウミガメで1個体目が直標準甲長47.2cm、直甲幅40.9cmで体重が12.6kgでした。2個体目は直標準甲長57.9cm、直甲幅46.8cmで体重が22.9kgでした。3個体目は直標準甲長47.4cm、直甲幅38.6cmで体重が13.6kgでした。この個体は標識I85237とJ83341が装着されていました。標識番号を照会したところ2012年8月12日に黒島にて

放流した個体でした。放流時の体サイズは直標準甲長45.2cm、直甲幅37.7cmで体重12.3kgでした。

薩摩川内市役所環境課 村岡実様より(5/27)

5月21日(木)、当市唐浜海岸にアオウミガメの死亡漂着がありましたので、お知らせいたします。甲長は42cm、甲幅は36cmで標識タグはありませんでした。翌日、砂浜に埋葬しました。

中日新聞様より(5/28)

アカウミガメが産卵する南知多町篠島の砂浜を清掃する「篠島ウミガメ隊」の結団式が27日、島の前浜海水浴場であった。ウミガメ隊は一部の児童の自主的な砂浜掃除がきっかけとなり、篠島小学校の児童全員によって2012年に結成。毎年、砂浜をきれいにしている。昨年はウミガメ1匹が砂浜で産卵。無精卵だったが、6月上旬~7月中旬、4回にわたり450個近い卵を産んだ。結団式には全校児童77人が参加。隊長となった、6年で児童会長の吉戸乙葉さんが「去年よりウミガメが来るように頑張ろう」と呼び掛けた。児童たちは「海をきれいにみんなで協力して頑張る。目指せ!日本一きれいな浜!」とのローガンを唱和した。式後はごみ拾いに汗を流した。今年は一学期は毎週水曜日の登校途中に、夏休みは日曜日ごとに活動する。

屋久島うみがめ館 大牟田法子様より(5/28)

2015年5月25日にいなか浜にてジャンボタグ装着個体の上陸、産卵を確認いたしました。種類はアカウミガメで右後肢にJ96678、左後肢にP型Y5041の標識タグが装着されていました。また新たに右後肢にP型Y5042を装着しました。事務局より：標識番号を照会したところ、2014年4月21日に高知県の室戸より放流された個体でした。放流時の体サイズは直標準甲長83.3cm、直甲幅64.4cmです。

特定非営利活動法人Turtle Crew 久米満晴様より(5/31)

5月30日に種子島熊野定置網に入ったアカウミガメのメスに屋久島の標識タグがついていました。標識タグ番号はY2903とY2904です。新たに装着した標識タグ番号は97267です。甲長85cm、甲幅69cmでした。種子島も相変わらず産卵が少ないと、西之表、中種子、南種子の調査員が言っております。事務局より：屋久島にて上陸産卵が確認された個体でした。甲長86.3cm、甲幅69.6cmで2012年3回上陸1回産卵、2014年4回上陸2回産卵確認されています。

枕崎市役所 橋口様より(6/1)

昨日、台場海岸にて死亡したウミガメのストラップがあつたと連絡がありました。発見者は地元住民の方で散歩中に見つけたそうです。肢の付け根にプラスチック製の丸みがかつた黄色い標識タグがついていました。体サイズは曲甲長60cm、曲甲幅40cmでした。標識番号は100837です。事務局より：2014年10月17日に鹿児島県野間池しろせ定置網にて混獲されたアオウミガメでした。体サイズは直標準甲長60.2cm、直甲幅49.9cmです。装着標識タグは

100836と100837です

 亀崎直樹様より (6/2)

5月26日、みなべ千里海岸にBrian Bowen博士と立ち寄りしました。上陸痕跡は4か所、内2か所は間違いなく上陸のみ、1か所は産卵している模様でした。残り1か所はピットはあるものの産んでないという感じでした。

 毎日新聞様より (6/3)

砂浜の砂が激減し、岩が露出していた奄美市の大浜海浜公園で、砂を入れる作業が1日から始まった。市は「本格的な海水浴シーズンを前にした応急的な措置」と話し、岩を取り除いて約300立方メートルの砂を補充する。大浜海浜公園の砂浜は2001年ごろから減り始め、ここ数年で激減。市によると、冬場に潮の流れなどから減っていた砂は以前まで夏場に回復していたが、近年は砂の回復が追いつかなくなってきたという。詳しい原因は分かっていない。砂が減った砂浜は、板状の砂岩のビーチロックが点在し、砂浜とは思えない光景を見せていた。作業は5日までの予定で、比較的砂が多く残る砂浜南側から、トラックなどの重機で砂を運び、ビーチロックを取り除いた北側の浜に入れる。市は「南側の砂浜はウミガメの産卵場となっているため、大量には移せない。入れた後の砂がどうなるか調査し、今後の対応を考えたい」としている。大浜海浜公園は、年間の利用者が9万人前後で、うち海水浴客も約1万人と多い。園内には遊歩道やキャンプ場のほか、海洋生物の展示施設もあり、市の観光、レジャーの拠点になっている。

 高知県おきもと様より (6/8)

高知県竜串 瓜白海岸でウミガメの上陸跡を5・6か所見つけました。掘った後もあり、産卵しているかもしれません。高知県で活動している溝渕さんが調査されました。砂利浜で条件がよくない砂浜でしたが、産卵巣一つ確認したそうです。

 須磨水族園 石原様より (6/9)

昨日南あわじ市土生の西野さんよりアカウミガメが網に入って死んでいるとの連絡を受け、引き取りに行って来ました。すでに腐敗が進んでいましたので、近くの浜で解剖し、そのまま埋設しています。種：アカウミガメ、性別：雄（未成熟、生殖腺より判別）、標準直甲長：75.7cm、最小直甲長：74.7cm、甲幅：60.9cm、消化管（胃・腸）は開けきっていませんが、固形物や液体が入っている。感触はなく、あっても極わずかかと思われます。尾も伸び始めていない雄でした。

 天草漁業協同組合 たばた様 (6/8)

6/8、定置網で標識のついたウミガメが混獲されました。生きていたのでそのまま放流しました。標識の番号はJPN7036でした。事務局より：標識から、野間池の定置網から放流されたアオウミガメでした。放流日2015.5.6、標準直甲長399mm、最小直甲長390mm、直甲幅315mm、装着タグ：JPN7035/7036

 元大阪事務局の宮形さんから面白い情報があったのでURLを添付します。「大怪我を負ったウミガメが、3Dプリンターの技術で脅威の回復」(亀田)?URL期限切れ

■ウミガメ速報15-8 (7/2)

 千葉県 森谷香取様より (6/14)

千葉県においてアカウミガメは、6月11日の鴨川市に次いで、いすみ市でも、6月14日に上陸・産卵がありました。場所は「太東漁港脇砂浜」と呼んでいるところです。漁港のコンクリート壁に砂が寄り付いて小さな砂浜が出来ていますが、正式な名称はまだありません。

 静岡県 西野和俊様より (6/17)

6月17日(水)の朝に湖西市白須賀海岸にてアカウミガメの初上陸、初産卵が確認されましたので御連絡をさせていただきます。今朝のは2m近くのカモフラージュがしてありましたので産卵と判断しました。今年は6月に入ってから急に海水温度が冷たくなりサーファーの子もセミドライを着ないと体が冷え切って寒いと言っており海水温度が影響しているのかな?とと思っているのですが西日本全体的に今年の産卵個体は少ない。と話を耳にしております。

 西日本新聞社より (6/17)

奄美の砂浜に異変:大浜海岸で激減小宿大川河口には出現鹿児島県奄美市で、自然の豊かさを象徴する白い砂浜に異変が起こっている。年間約9万人が訪れる観光スポット「大浜海浜公園」で砂浜が激減し、一方では岬一つ隔てた埋め立て地の河口に新しい砂浜が出現した。市は海水浴シーズンを前に海浜公園に砂を入れる応急処置をしたが、原因究明と抜本対策を求める声が上がっている。

 徳島新聞社より (6/17)

落下のウミガメ 住民が30分かかけ救出:阿南市椿町の蒲生田海岸で14日早朝、上陸後に動けなくなっていたアカウミガメを住民が救出した。午前7時ごろ、近くの60代の女性が同海岸でウミガメの足跡を発見。周囲を探したところ、波打ち際から約15メートル離れた砂浜で体長約15センチのウミガメを見つけた。海に戻る際に誤ってコンクリート製のスロープを上がり、約1.5メートル下に落下したとみられ、埋もれてもがいていた。助けを求められた近隣住民3人が、30分の体にロープを巻き付けて引っ張り上げ、約30分後にウミガメは海に帰って行った。救出作業を行った「蒲生田地区会合」の岡本憲治会長(68)は「ウミガメが助かって良かった。今後同じような事故がないように祈っている」と話していた。

 匿名の方より (6/17)

5月5日 静岡県熱海市上多賀沖 約200m付近でアオウミガメに遭遇し撮影しました。

 屋久島うみがめ館 内田様より (6/18)

P型タグ装着の個体を確認いたしました。TAG確認日：2015.6.16、確認地：前浜(上陸・戻り)、カメ種：アカウミガメ、標識：P型100716(左後肢)、P型Y5491(右後肢)・PIT392145000264433(左前肢)2015.6.16装着その他：14：50上陸中を発見。事務局より。室戸基地より放流した個体でした。放流日：2015/5/14、放流場所：高知県室戸岬町椎名、体データ：標準直甲長895/最小直甲長884/直甲幅715(mm)、標識装着：インコネル5193-A/Pタグ100716

千葉日報ウェブより(6/18)

「かわいい」触って観察 ウミガメ通じ児童ら学ぶ シーワールド移動教室 鴨川・東条小の3、4年生：鴨川市立東条小学校(蒔苗茂校長)で17日、鴨川シーワールド職員によるウミガメ移動教室が行われた。同校の3、4年生110人がウミガメの生態を学び、実際に触れて観察し、自然保護の大切さを学んだ。移動教室は、鴨川シーワールドが海への興味と自然保護活動への関心を高めてもらおうと、2012年から実施。千葉県内の幼稚園や小中学校で開催しており、この日が今年1回目となる。

長崎県みうら様より(6/19)

ウミガメの混獲がありましたので、ご連絡します。2015/6/19、長崎県野母崎、定置網にて混獲、標識JB7068,JB7067、生存のため、そのまま放流。事務局より：鹿児島県の野間池から放流したアオウミガメでした。放流日：2015/6/5、体データ：標準直甲長401mm/最小直甲長389mm/直甲幅335mm

千葉日報ウェブより(6/19)

産卵環境整備で砂浜の清掃活動 いすみで大原高生徒 ウミガメ通じ児童ら学ぶ：ウミガメが産卵できる環境を守ろうと、千葉県立大原高校岬キャンパス(浅野照久校長)の生徒125人が17日、いすみ市の和泉浦海岸で、砂浜をきれいにする「ビーチコーミング」を行った。生徒たちはごみ袋を持ち、流木やペットボトルなどを拾って歩いた。同高の環境保護活動の一環で、13年前から始まった。同海岸では毎年2~3カ所、ウミガメの産卵が確認できるという。ジャージー姿の生徒たちは各組ごとに別れ、100メートルごとに仕切られた受け持ち場所へ。拾ったゴミは分類して記録。11月に開かれる文化祭で展示し、環境保護について考えるきっかけにする。3年の福井海東君(17)は「何十年後もウミガメが来る海にしたい」とやる気満々。同年の神山愛さん(17)は「砂浜がきれいになると気持ちいい。卒業しても続けたい」と笑顔で話した。

産経WESTより(6/21)

ウミガメはハワイで育つ 放流20年、日本に帰還か：名古屋港水族館(名古屋市港区)は約20年前からアカウミガメの放流に取り組み、これまでに5千匹以上を太平洋に送り出してきた。調査で、多くが米ハワイ近海で成長することなど謎だった生態の一端を明らかにした。20年の歳月を経て、最初に放流したカメが産卵のため日本に帰還する時期に差しかかるとみられ、生態解明への期待が高まっている。

「人工繁殖の個体は野生に比べて体力が劣りがち。元気に生きているとは」。今年4月、2012年に沖縄・黒島で放流した絶滅危惧種タイマイが約千キロ離れた鹿児島・屋久島周辺で確認され、水族館は沸いた。ウミガメ飼育担当の松田乾さん(46)も喜びをかみしめた

千葉県 渡部明美様より(6/23)

昨日の千葉県の一宮町でも初産卵がありました。釣りが先海岸駐車場入ってすぐ北側です。事務局より。今年の会議開催地でも初産卵がありました。多くのウミガメが来てくれることを期待します。

(株)海の中道海洋生態科学館 宮地勝美様より(6/23)

長崎県生月島の漁師の定置網にウミガメの混獲がありました。場所：長崎県生月島定置網、日：2015年6月23日朝混獲、種：アオウミガメ、標準直甲長41.1cm、直甲幅33.9cm、体重9.5kg、左右の前肢に青プラスチックジャンボタグ、JPN7032(左)JPN7031(右)の標識あり。状態は元気なので再度 放流予定。事務局より：鹿児島県野間池で放流された個体でした。放流者：鹿児島大学ウミガメ研究会放流日：2015年5月2日、体データ：標準直甲長41.6cm；直甲幅33.5cm

千葉県 森谷香取様より(6/24)

6月17日、いすみ市の日在浦に漂着死骸がありました。種：アオウミガメ、標準直甲長：50.0cm、直甲幅：38.0cm、頭と前後肢なし、タグなし毎日、夜明け時から5.5kmの海岸全域の漂着ゴミ拾いを伴うパトロールを行っている時に発見しました。農林水産課・水産振興班職員とウミガメ保護監視員が計測後、砂浜に埋設し千葉県に報告しました。

須磨海浜水族園 石原孝様より(6/25)

本日一般の方よりテトラの近くに朝からウミガメがいるとの通報を受け、調査に行ってきましたので報告します。2015年6月25日、種：アカウミガメ、場所：兵庫県神戸市 通称 舞子浜(明石大橋の西側)、状況：一文字に設置されているテトラポットの沖側。5mlほど離れた位置にホンダワラに絡んで浮いていた。体サイズ：標準直甲長77.1cm、最小直甲長75.6cm、直甲幅63.6cm、性別：未成熟の雄(生殖腺を確認)。尾もまだ伸び始めていない。処理：砂浜に埋設。

長崎県 渡辺美佳様より(6/30)

29日、雪浦の後の浜にて、今年2回、アカウミガメの卵を確認しました。ウミガメのことについて、まだ初心者です。さずきのまま、自分自身の確認もあって、書きました。2002年に、この浜で、子供たち、地域の皆さんと、海亀の孵化を見ました。その時の感動が忘れられない私達です。

福津市 地域生活部 うみがめ課 川島様より(6/30)

6月28日に、本市勝浦沖にてアオウミガメの混獲がありました。標準直甲長750mm、最小直甲長600mm、死亡。

徳島県 濱直大 様より (6/30)

漂着したウミガメを見つけたのでご報告します。
発見日：2015.6.28、発見者：濱直大、発見場所：国道55線を室戸から徳島方面に向かっていましたら、”ここから東洋町”という案内板の右側の海岸です。状態：死亡、種類：アオ、雌雄：♂、大きさなどは不明。

千葉県 森谷香取 様より (7/1)

6月28日、千葉県いすみ市の和泉浦海岸に漂着死骸がありました。種：アオウミガメ、直甲長：65cm、直甲幅：54cm、頭および前肢・後肢共なし。なお、アカウミガメについては同日に第2回上陸がありました。が、産卵なしでした。本日(7/1)に至り、連日の雨や高波、5.5km海岸全域を覆う漂着ゴミにより、厳しい状況が続いています。

■ウミガメ速報15-9 (7/29)

東京都 エバーラスティング・ネイチャー小笠原事業所 鳴島浩二 様より (7/2)

標識の照会をお願い致します。青色プラスチックジャンボタグ「96395」「96396」。7月1日父島にて産卵上陸個体に装着されていました。事務局より：この個体の放流情報は下記の通りです。放流日：2013/12/20、種：アオウミガメ、放流場所：高知県室戸市椎名、サイズデータ：SCL927/MCLなし/CCL963/SCW725/CCW910、標識装着：インコネル90812,90813/プラタグ(青)96395,96396

埼玉県 岡田 悟 様より (7/4)

千葉県南房総市久枝の海岸にウミガメが漂着していました。事務局より：写真を確認したところアカウミガメでした。また、エバーラスティング・ネイチャーさんによって調査されました。

神奈川県 岡田 真人 様より (7/2)

6月21日、千葉県館山市の伊戸海岸にいろいろな部位の骨が打ち上がっていました。また、23日には平砂浦にて一個体分と思われる白骨化したウミガメを見つけました。甲羅が盛り上がり変形していましたが、大きさは縦40cm、横35cmぐらいでした。事務局より：平砂浦の個体はアオウミガメでした。

静岡県 DAN'S DIVE SHOP 鈴木美智代 様より (6/24)

はじめまして！先日(6/22)に静岡県伊東市の伊豆海洋公園で潜水水中に、小振りなアオウミガメに遭遇しました。このポイントには長年観察し見分けのついていない数個体がいるためカメラに遭遇するのは珍しいことではないのですが、「札」が付いていたということでご報告すべきところがあるのかも？と思いき連絡させていただきました。画像を確認したら、漢字3文字のようにみえます。最初の1文字目が不鮮明すぎるのですが「万」のような？？その後の2文字は「秋」「平」と読めます。そのフダは甲羅にビスのようなもので付いているのか、エボシガイがくっついていました。このような情報を必要としていますか？とりあえず、当日は海中の透明度がい

ちじるしく悪く、写真もきれいに写りませんでした。確認程度にはなるかと、画像も添付させて頂きます。事務局より：いただいた写真を確認したところご連絡いただいた通り「万秋平」と読めます。台湾と香港の研究者に問い合わせたところ、どうやら中国人の名前のようだとのことですが、それ以上の詳細は現在のところ不明です。また新たな情報が入りましたら報告します。

東京都 中村 洋太郎 様より (6/27)

宮崎にサーフトリップ中です。串間市の恋ヶ浦にてウミガメの漂着がありました。画像を添付しておきます。事務局より：いただいた写真には、しっぽの伸びた大きなアカウミガメのオスが写っていました。

長崎県 桑宮 多紀子 様より (7/2)

本日、近所の方と標識の付いたウミガメの死体を発見したので連絡しました。場所は長崎市川原町の橘湾に面した磯です。なお、大潮で潮が引いた後の磯に打ち上がっていましたが、傷みは見られませんでした。標識は前ヒレの一つずつ青色のプラスチックのものが付いており、番号は7067と7068でした。事務局より：この個体は鹿児島県南さつま市野間池しろせ定置網の宮内叶さんが放流した個体でした。放流日：2015.6.5、種：アオウミガメ、放流場所：鹿児島県野間池、体データ：SCL401mm、SCW335mm

沖縄県 勝連漁協 様より (7/3)

標識の付いたカメラが定置網に入ったので連絡しました。事務局より：この個体は琉球大学ちゅらがみーさんからの放流情報です。放流日：2015/6/20、放流場所：沖縄県読谷村都屋、種：アオウミガメ、性別：メス、SCL83.9cm、MCL83.8cm、SCW：67.7cm、標識番号：右前脚JPN78485、右後脚JPN78484、左前脚JP98637、左後脚JP98650

鹿児島県 屋久島うみがめ館 小出 祥太郎 様より (7/4)

P型タグ装着の個体を確認いたしましたので情報をお知らせください。TAG確認日：2015.7.2、確認日：屋久島いなか浜(上陸・戻り)、カメラ種：アカウミガメ、TAG種：P型100717(左後肢) 事務局より：当会室戸基地から放流した個体でした。放流日：2015/5/15、種：アカウミガメ、放流場所：高知県室戸市高岡漁港、体データ：SCL823/MCL810/CCL874/SCW627/CCW854、標識装着：インコネル5191-A、Pタグ100717

静岡県 西野 和俊 様より (7/7)

今朝(7日のAM4:40)、アカウミガメの産卵後を見つけたので御連絡をさせていただきます。タグはインコネルのJP89272を左前肢に打ちました。甲羅の大きさは亀ノギスで、直標準甲長84.2cm、直最小甲長82.8cm、甲幅61cmでした。7月7日現在の湖西市は「3上陸2産卵」です。

朝日新聞より (7/7)

消えゆく海水浴場、30年で半減 千葉、潮流変化が影響。首都圏の代表的な海水浴エリアである千葉

県の九十九里浜や神奈川県西湘(せいしょう)海岸などの一部で、砂浜が消えつつある。

秋田魁新報より (7/10)

「オサガメ」の死骸、男鹿市で発見 世界最大のウミガメ秋田県男鹿市の宮沢海水浴場で8日、世界最大のウミガメとして知られる「オサガメ」の死骸が打ち上げられているのが見つかったオサガメは国際自然保護連合(IUCN)が「絶滅の危険性が極めて高い」としている希少種。国立科学博物館(東京)の職員が9日、現地で解剖して死因などを調べる。砂浜の清掃などをしてきた男性作業員(25)が8日午前10時ごろ、波打ち際で死骸を発見し、県に連絡した。男鹿市と男鹿水族館GAOが調べたところ、体長約1・6メートル、幅約0・6メートルで、頭部や足の一部がなくなっていた。死後、かなりの日数が経過したとみられる。オサガメは他のウミガメと違って甲羅がなく、黒いゴムのような皮膚で覆われているため、英語圏では「皮の背中」を意味するレザーバックと呼ばれる。産卵場所となる砂浜の開発、卵の乱獲、漁網での混獲などにより個体数が著しく減っているという。

Hazard Lab より (7/10)

温暖化の影響「海面上昇で21世紀末には9割の砂浜が消失」国土交通省と農林水産省は9日、温暖化による気候変動に伴う沿岸部への変化や災害リスクに関する基本的な考え方を取りまとめた。この報告書のなかで、21世紀末までに海面水位は最大で80センチ以上高くなり、これによって91%の砂浜が消失するという予測結果を発表した。国連の専門家組織「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」の最新の報告書によると、今世紀末までの世界の平均気温は、1986年~2005年の平均値に比べて、0.3~4.8度上昇し、海面水位は、最大で82センチ上昇すると予測されている。国交省と農水省が9日に公表した「沿岸部(海岸)における気候変動の影響及び適応の方向性」に関する報告書では、IPCC報告書をもとに、海浜や堤防・護岸、港湾内への被害リスクを示している。それによると、海浜における砂浜消失率では、20センチの海面上昇で36%、60センチで83%、80センチでは91%の砂浜が消失し、IPCCが予測した今世紀末には日本の9割以上の砂浜が失われ、環境や水産資源への影響が危惧されている。海面水位の上昇以外にも、強い台風の増加などで、堤防・護岸からの越波や越流、防波堤決壊による浸水被害の増加などが広がる懸念される。これらの影響に対応するために、報告書では海岸侵食対策に関する新技術の開発や、高潮位時の逆流防止対策、市町村によるハザードマップや避難計画の策定、訓練の実施などの適応策を掲げた。

福岡県 福津市うみがめ課 様より (7/10)

7月10日に、本市勝浦沖にてアオウミガメの混獲がありました。標準直甲長450mm、直甲幅370mm、生死：死亡

宮城県 藤田 美緒 様より (7/11)

本日、ウミガメが死んで砂浜に打ち上げられていたを発見したので連絡します。場所は宮城県宮城郡七ヶ浜町の菖蒲田浜です。写真をお送りします。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。なお、こちらの個体は七ヶ浜町役場によって埋設処理されました。

千葉県 房州 文子 様より (7/15)

7月15日(水)午前7時頃、アオウミガメと思われる死体を息子が発見しました。場所：千葉県銚子市名洗海岸(屏風ヶ浦下)、発見者：房州 勝也、事務局より：いただいた写真よりアカウミガメと分かりました。

東京都 遠藤 崇 様より (7/18)

HPを見て初めて連絡致します。昨日、7月17日(金)のお昼頃ですが、東京の水の上バスの船員がウミガメの死体を見つけました。場所は、東京都にある芝浦運河というところですが、住所でいうと、東京都港区芝浦4-22-1付近になります。芝浦運河は運河幅が50m程で、海とは防潮水門を介して接続されています。水門を通して運河内に入り込んでしまったのでしょうか。腐敗が進んで体も一部欠損しており、腐敗臭を出して運河内を漂流(運河内も潮の干満があります)している状態だったそうです。画像は1枚しか撮っていないとのことですが、今日もまだ運河内にあるかも知れないとのことでした。事務局より：いただいた写真よりアカウミガメと分かりました。

徳島新聞より (7/19)

牟岐町・松ヶ磯の砂浜が流失 ウミガメ、2度上陸も産卵せず。台風11号による波の影響で、牟岐町灘の松ヶ磯に広がる砂浜の大部分が流失したことが18日、地元関係者の話で分かった。アカウミガメが同日、2度にわたり上陸したが、産卵せずに海に戻る光景も見られた。松ヶ磯は、貝の資料館「モラスコむぎ」の前に広がる砂浜。干潮時には沖合約150メートルの岩場まで砂浜が露出し、奥行きは約30~40メートルあった。ところが、17日の台風11号の波で砂浜の大部分が姿を消し、護岸の隅に一辺30メートルほどの三角形に残るだけとなった。モラスコむぎに事務所があるNPO法人カイフネイチャーネットワークの大梅謙治さん(66)＝同町灘＝によると、面積にして9割以上の砂浜が消えたという。産卵間近とみられるアカウミガメが上陸したのは18日午後5時ごろと同5時50分ごろの2度。産卵場所を探しているとみられる行動を取っていたが、2度とも産卵せずに海に戻った。大梅さんは「ここまで砂が減ったのは見たことがない。カメは卵を埋められる場所が見つからなかったのだろう」と話している。

8月10日夜8時から、NHK BSプレミアムで放送されるWild Japanでは、西表島のウミガメが放送されます。

当会付属の黒島研究も撮影に協力しています。是非ご覧ください。亀田

■ウミガメ速報15-10(8/23)

 神奈川県 岡田 真人様より (7/21)

7/21に千葉県館山市の伊戸海岸でウミガメの骨を見つけました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメのお腹の骨が写っていました。

 高知県 溝渕 幸三様より (7/24)

2年前は平野と二見で63頭でしたが、昨年は22棟、今年はまだ8頭です。その中に、3.4センチのものは以前写真を送ったような子ガメがゾクゾク・・・今年もそんな感じです。ただ、台風の波で移植場所も浸かりました。

 福島県 平治隆様より (7/24)

アカウミガメの産卵を確認しましたので報告致します。日時：平成27年7月22日、場所：福島県いわき市新舞子海岸、産卵数：112個（但し直径1cm程度の小型卵1個を含む）、状況：7月22日朝5時、日本野鳥の会いわき支部の方が上陸跡を発見し、ふくしま海洋科学館に通報。ふくしま海洋科学館職員が現場で掘り返したところ、卵を確認。産卵場所が大潮の際に水没する場所であったことから、同場所より30m内陸の砂浜に移植した。

 宮城県 上遠野 拓也様より (7/29)

この度、宮城県の松島町に漂着したウミガメ（斃死個体）の種特定をお願いしたく、ご連絡させていただきました。詳細については、以下のとおりとなっております。発見日時：7月27日の夕方、一般の方から、松島港の観光船発着場にウミガメが漂着しているとの連絡があった。甲羅の大きさは（長さ）1m位、頭部がなく、フジツボ等の付着物、ひどい悪臭を放っている状況。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

 喜多直人様より (7/31)

本日打ち上がっている死んだウミガメを発見しました。昨日まではなかったのですが、昨晩の満ち潮に乗ってきたと思います。場所は、宮城県七ヶ浜町菖蒲田浜です。事務局より：いただいた写真には甲長70cmぐらいのアカウミガメが写っていました。なお、宮城県水産漁港部に連絡し、対応をお願いしたところ、7月に、他にも2件アカウミガメの漂着があったとの情報をいただきました。上記の情報と合わせると、宮城県ではこの1ヶ月で4例目の漂着となります。

 サカマキ様より (7/23)

既に、情報があるかもしれませんがウミガメを発見しました。少し前にイルカの座礁でも取り上げられた場所のすぐ近くです。発見日時：7/19 日 5:00頃 発見場所：茨城県鉾田市濁沢サーフポイントです。全長60～70cmくらい。既にカメさんは仰向けになり、異臭が漂っていました。何かできないかと思いこのサイトにたどり着きました。地元ではないので、現在はどうなっているかわかりませんが、その後の処置などお願いできるのであればよろしく申し上げます。事務局より：エバーラスティング・ネイチャーさんに連絡したところ、すでに調査済みの個体であ

ることがわかりました。

 宮崎県 岩切 康二様より (7/22)

7/18に宮崎市明神山海岸で、標識の付いた上陸中の個体を発見しましたので、連絡いたします。産卵はせずに戻りました。標識は青色プラスチックの62374です。事務局より：当会室戸基地より放流した個体でした。放流日：2011/1/28、種：アカウミガメ、放流場所：高知県室戸市三津、体データ：SCL775mm MCL750mm CCL798mm SCW630mm CCW740mm、標識：インコネル75881、75882、プラスチックタグ62373、62374

 千葉県 森谷 香取様より (7/30)

いすみ市の海岸は九十九里浜より少し離れた南にあります。北から太東漁港脇砂浜（0.9km）、夷隅川北岸（0.7km）、いすみ川の南岸から、居ず三浦（1.5km）、日在浦（2.4km）と続き合計5.5kmです。和泉浦の中でも三軒屋海岸という夷隅川の河口部分では、大原高校の生徒さんが年に2回のゴミ掃除、サーファーの皆さんもゴミ掃除イベントをしていただきます。毎朝、アカウミガメ保護活動の私達は、夷隅川の河口から絶え間なく夥しいゴミが砂浜に漂着するため、海岸全域の漂着ゴミ拾いを伴うパトロールを続けています。いすみ市では、アカウミガメ保護活動は、毎朝のゴミ掃除活動なのです。台風後は海水温が低いままで、7月末になってもアカウミガメの上陸は3回、この内産卵は1回です。心配になって近隣の町に聞き合わせたところ、御宿町は上陸が無く、一宮町や白子町もとても少ないそうです。

 愛媛県 前田 洋一様より (7/31)

2015年7月7日 愛媛県上島町でウミガメの死体が打ち上げられてという情報が入りました。アオウミガメで正しいでしょうか？なお、下記の通り、上島町役場の方が計測したそうです。サイズは全長102cm、甲羅縦80cm、甲羅横62cm、前足48cm、後足20cmです。計測の方法は不明ですが、甲羅の長さは甲甲長ではないかと思えます。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

 埼玉県 木村 里江子様より (8/1)

こちら千葉県九十九里のかんぼの宿前の海岸です。波乗りするのに来たらこの亀が亡くなってました。亀は日干しになってしまつて可哀想です。動物が凄く好きなので本当に辛いです。どうか今後の為にもよろしく申し上げます。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。エバーラスティング・ネイチャーさんに連絡しました。

 長崎県 渡辺 美佳様より (8/1)

長崎県西海市雪浦にて、7月16日、今年3回目の産卵を確認しました。8月1日、4回目ウミガメ上陸。産卵しているかどうか確認する予定です。砂の盛り上がりがあるので期待できます。

 島根県 村上 昌吾様より (8/1)

アカウミガメ上陸痕の情報がありましたので連絡

します。公益財団法人しまね自然と環境財団（松江事務所）の葭矢崇司氏より連絡をいただきました。（確認日時）平成27年7月23日19:50頃、（場所）島根県大田市久手町波根西 波根海岸、（状況）波根海岸中央部の砂浜にウミガメの上陸痕を確認したが、個体の確認はできなかった。他の痕跡がないか周囲の砂浜を確認したが、テトラポッド突堤で区切られた同一区画内のおよそ50m東側にて同様の痕跡が確認された。当該部a分の砂浜は、幅が約50m、奥行き5mほどで、奥側はすぐにコンクリート製の階段式防潮堤に遮られており、産卵巣の痕跡は確認できなかった。翌7月24日早朝に、さらに痕跡がないか、波根海岸全域を踏査したが、他の痕跡は発見できなかった。

徳島県 阿部 直樹様より（8/2）

阿南市の海岸に2個体のウミガメの死体が漂着しましたので、調査記録を送付します。1個体目 調査日時：2015/7/1 15:30ごろ、発見場所：徳島県阿南市大潟町大潟海岸、種：アカウミガメ、生死：死、甲長75cm、甲幅40cm、いずれもメジャーで測定、標識：なし、備考：あこめ海岸の手前の船着き場に漂着。フジツボが一個付着。腐敗が進んでおり、死後一週間は経過していると思われる。2個体目 調査日時：2015/7/18 9:30ごろ、発見場所：徳島県阿南市中林町中林海岸、種：アカウミガメ、生死：死、甲長約100cm、甲幅約70cm、いずれもメジャーで測定、標識：なし、備考：17日に発見、海が荒れて近づけなかったため、翌18日に処置。頭に血痕があり、死因と思われる。

匿名の方より（8/3）

海亀の死骸についてご連絡です。昨日8月2日午後2時頃、鳥取県西伯群日吉津村の日吉津港の船舶係留箇所にて、海亀の死骸を発見しました。死骸は腹側を上にして浮いており頭部と手の先は無く、手は水掻き部分より上腕部が、白骨化しています。昨日、写真を撮る物を持っていなかった為、写真を撮っていませんが、本日午後、現場に向かい写真を添付したe-mailを再送させていただきます。事務局より：その後現場に行っておきながら、流されておき写真撮影ができなかったそうです。

宮城県 大友 康広様より（8/3）

宮城県東松島市浜市沖で今朝8月3日6時頃水深15mメートルの定置網で捕獲、その後石巻市の沖合で放流、元気に泳いで行きました。事務局より：写真には標識の付いたアカウミガメが写っていました。残念ながら、番号はわかりませんでした。

兵庫県 匿名の方より（8/5）

淡路島の沼島の底曳網の漁師です。本日、アカウミガメが網に掛かりました。元気そうでしたので、その後放流しました。

国頭村 嘉陽様より（8/5）

7/9、国頭村の奥の砂浜で調査中に、アダンに挟まって動けなくなったウミガメを発見しました。一

人では救助が難しいため、地元の友人に連絡し協力して救助し、海へ放流しました。種はアオウミガメで、標準直甲長102cm、甲幅80cmでした。

茨城県 徳永 幸太郎様より（8/7）

先日（8月5日）に捕獲されたアオウミガメに標識を取り付け放流しましたので報告いたします。8月5日、茨城県ひたちなか市磯崎の沖で、漁師の刺し網にて捕獲されました。当館（アクアワールド茨城県大洗水族館）職員が水族館に持ち帰り、計測、タグ取り付け後水族館前の海岸に放流しました。サイズ、タグNo.は下記の通りです。直甲長：43.4cm、直甲幅：37.4cm、体重：11.0kg、タグNo. 左前肢：55251、右後肢：54413JP、左後肢：59800JP

宮城県 笹川 奈美様より（8/9）

8月9日午前仙台市宮城野区蒲生海岸にウミガメの亡骸(1体)あります。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

国頭村 嘉陽様より（8/13）

今年はシーズンの初期から産卵が少なく、今年の産卵が少ないのか、ピークが後半にずれるのか、疑問でした。8月に入って産卵がほとんどなく、産卵が少ないままシーズンを終えそうな様子です。まだ集計していませんが、産卵数は今年の半分ほどのようです。

島根県 村上 昌吾様より（8/13）

前回と場所は違いますが、本日上陸痕の確認をして、産卵巣の捜索をしたところ発見しました。場所は益田市津田町の西浜海岸です。地元住民の方が今朝7時20分頃に散歩中に上陸痕を発見しました。当館（しまね海洋館アクアス）職員2名と益田市職員1名が発見者とともに11時頃から現地調査を行いました。産卵巣は卵が見え始めた上部のみ確認し、そのまま埋め戻して見守ることとしました。

沖縄タイムスより（8/20）

産卵で上陸 ウミガメひかれ死ぬ 沖縄・大宜味村の国道：大宜味村喜如嘉の国道58号で16日夜、産卵のために上陸した雌のアオウミガメ（絶滅危惧2類）が車にひかれて死んだ。日本ウミガメ協議会によると、成体が陸上で事故死した記録は全国にもない。北部国道事務所が対策を検討する。現場は、砂浜と道路の間に遮る物がない。事故を聞いて駆け付けた協議会会員の米須邦雄さん（63）＝大宜味村＝は「アオウミガメは砂浜の奥まで上がって産卵する習性がある。上がった場所がたまたま国道だったのかもしれないが、痛ましい事故だ」と話した。同じ現場では2011年にもふ化したばかりのタイマイがひかれて死んだことがある。子ガメは街灯に誘われたとみられ、今回のアオウミガメもその可能性があるという。米須さんは「砂浜の出口に丸太を置いたり、街灯の光を工夫したりするだけで事故は防げる」と訴えた。アオウミガメは甲羅の長さが88センチ、体重87.5キロ。事故を起こした車も損傷したという。当時、現場では雨が降っていた。北部国道事務所は

これまで、子ガメを道路上に招かないよう、街灯の種類や照らす範囲を調整してきた。「大人のカメラが道路上に来ることは想定できなかった。今後、専門家とも相談しながら事故を防ぐ対応を考えたい」としている。日本ウミガメ協議会の松沢慶将会長は「国道事務所と海岸を管理する県が連携して対策を取ってほしい」と求めた。

テレビ朝日より(8/20)

産卵直前ウミガメ、はねられ死ぬ 卵は人工孵化へ：産卵直前のウミガメに悲劇です。16日午後10時半ごろ、沖縄県大宜味村の国道で、道路の脇を歩いていたアオウミガメが軽自動車にはねられました。この画像を撮影した男性によりますと、現場は4年前にも孵化(ふか)したばかりの別の種類のカメラが事故に遭っているということです。また、男性は「親ガメが事故に遭うのは今回が初めてのケースだ」と話しています。死んだアオウミガメはおなかに卵を持っていて、今後、美ら海水族館の関連施設が人工孵化させる予定だということです。

琉球新報より(8/22)

事故死ウミガメの卵ふ化へ 体内から摘出、保護：16日夜に大宜味村喜如嘉の国道58号で車にひかれて死んだメスのアオウミガメの体内に残っていた卵を沖縄美ら島財団・総合研究センター(本部町)が引き取り、人工ふ化を目指して取り組んでいる。卵は80個あり、10月にもふ化できるよう保護している。成体のウミガメの交通事故死は国内でも記録がなく、その体内から卵を取り出してふ化させるのは珍しい試み。死んだウミガメを沖縄美ら島財団の研究員らが17日に解剖し、卵(直径4.5センチ)を取り出した。卵は気温で性別が決まることから、保管機器内の温度をオスとメスが半々になる29度に設定し水分を定期的に吹きかける。順調にいけば、1カ月半から2カ月後にふ化が想定される。財団・総合研究センターの河津勲係長は「不幸にも車にひかれてしまったが、身を削って産卵しようとしていたことに報いたい。100%ふ化するかは分からないが、私たちのテクニックを最大限に駆使したい」と語った。

■ウミガメ速報15-11&ウミガメ会議のご案内(9/11)

「第26回日本ウミガメ会議 in ちのみや千葉」のご案内
今年に関東初の千葉県一宮町での開催です。一宮町は都心に近い場所にありながら、意外にも毎年アカウミガメが産卵に訪れます。会議では千葉県で活動する団体をはじめ、全国のウミガメ関係者が集まります。生き物や自然が大好きな方ならどなたでも参加できます。北限の産卵地で皆様とカメラ談話ができることを、心より楽しみにしております。

日付 11月27日(金)～11月29日(日) 場所 ホテルー宮シーサイドオーツカ 問合せ NPO法人日本ウミガメ協議会付属黒島研究所 電話0980-85-4341, E-mail: kuroshima@umigame.org 会議詳細と参加申込み方法は、日本ウミガメ協議会ホームページをご覧ください。

長崎県 九十九島水族館「海きらら」 栗須 翔弥 様より(8/8)

当館では漁師さんの協力をいただき、混獲調査を主に行っております。6月に漁師さんから連絡をいただき、記録をとりに行ったところ、両方の前肢にタグがついておりました。JPN7031とJPN7032と書かれておりました。亜成体の個体です。事務局より：この個体は最初に、鹿児島県野間池の定置網にて混獲され、宮内叶さん、鹿児島大学ウミガメ研究会によって放流されました。その際の情報は、放流日：2015年5月2日、場所：鹿児島県野間池、体データ：標準直甲長416mm/直甲幅335mmでした。その後、福岡県、海の中道海洋生態科学館の宮地勝美さんより、再発見、放流の連絡をいただきました。その際の情報は、発見日：2015年6月23日、場所：長崎県生月島定置網、標準直甲長411mm/直甲幅339mm/体重9.5kgでした。

徳島新聞より(8/14)

美波の浜太郎、65歳に 国内最長寿のアカウミガメ 美波町日和佐浦の日和佐うみがめ博物館カレッタで飼育されている国内最長寿のアカウミガメ「浜太郎」が13日、65歳の誕生日を迎え、来館者ら約100人から祝福を受けた。屋外の大がめプールで誕生会があり、田中宇輝学芸員(29)がプレゼントのイセエビ1匹を投げ入れると、浜太郎はおいしそうに口を動かしていた。浜太郎にまつわるクイズ大会もあり、「名前が付けられたのは何歳の時か」といった10問が出題された。来館者はプール周辺の解説板を見るなどして、答えをひねり出していた。同町木岐の中崎瑞喜ちゃん(6)は「これからも元気に長生きしてほしい」と笑顔で話した。浜太郎は1950年、大浜海岸に産み落とされた卵からふ化した。日和佐中学校科学クラブの飼育・観察記録が残っており、生年月日が判明しているウミガメでは国内最長寿。今月4日にはカレッタ開館30周年を記念し、町から住民票が贈られた。

沖縄県もとぶ元氣村キタヤマ様より(8/15)

アオウミガメのストランディングを発見しました。場所：沖縄県国頭郡浜元410、日時：2015/8/15、甲長：不明、甲幅：不明、事務局より：沖縄美ら海水族館に調査をお願いしました。

東京都 脇坂 友貴 様より(8/15)

九十九里浜南部にてウミガメの漂着を発見したので連絡いたしました。場所は千葉県長生村一松の幸福の科学大学の裏です。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。また、エバーラスティング・ネイチャーさんに対応をお願いしました。

宮城県上遠野 拓也 様より(8/19)

ウミガメの座礁情報について、昨日海岸管理者より現地での写真の提供がございましたので送付致します。写真を確認すると、2個体ともかなり腐敗が激しいようでしたので、種の特定ができ次第、現地へ

の埋却処理を検討しているとのことでした。お忙しいところ恐縮ですが、座礁したウミガメの種について判明しましたら、ご連絡いただきますよう宜しくお願い致します。なお、発見場所は2個体とも仙台市向洋海浜公園で、1個体は甲長約80cm、もう1個体は甲長約70~80cmです。事務局より：いただいた写真より2個体ともアカウミガメとわかりました。

読売新聞より (8/20)

アカウミガメの産卵地、上陸ゼロに...原因不明。アカウミガメの産卵地として知られる熊本県の天草・芦北地域で、今年がアカウミガメの上陸が確認されていない。未上陸は記録が残る2000年以降初めて。はっきりした原因は分かっておらず、関係者は「気候変動の影響か、偶然なのかかわからない」と当惑している。アカウミガメは福島県から沖縄県までの広い範囲に上陸し、産卵する。熊本県のレッドリストでは、野生での絶滅の可能性が極めて高い「絶滅危惧1A類」に分類され、2005年には、捕獲などが禁止される県の希少野生動植物に指定された。県内では例年、5月~8月中旬頃にかけて上陸し、産卵する姿が確認されている。県自然保護課の記録では、上陸回数や孵化数は年によってばらつきがあるものの、過去5年間では、天草諸島・下島を中心に年間15~30回程度の上陸が確認され、200~1600個ほどの卵が孵化しているという。アカウミガメが今年上陸していない原因としては、5月頃に気温があまり上昇せず、梅雨が長引いたことで、海水温が十分に上昇しなかったことなどが考えられるが、県希少野生動植物検討委員会の豊田史弥調査員(49)は「8月に入って気温が上がりつつも上陸が確認できない。はっきりとした原因はよくわからない」と首をひねる。

北海道 木原 智彦様より (8/20)

本日、北海道宗谷郡猿払村浜 猿払沖の小型定置網にウミガメがかかりましたので連絡しました。なお、個体は死亡しており、少し生臭いです。また、甲羅のサイズは長さ75cmの幅70cm程で、体重は66kgでした。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。

和歌山県 串本海中公園センター 吉田 徹様より (8/22)

標識の付いたウミガメが死亡漂着しているのを発見したのでご報告します。発見日時：2015年8月21日頃、発見者：当館職員、発見場所：和歌山県串本町稲村崎付近(北緯33°28'39.8"、東経135°44'19.9")、種：アオウミガメ、雌雄：不明、最小直甲長：64.3cm、直甲幅：51.7cm、標識：JP32027(白色)、その他：まだ死後数日ほどで、目立った外傷はなく死因は不明。標識は回収。個体の情報が分かりましたらよろしくお願ひします。事務局より：この個体は、2003年に小笠原から放流された個体でした。

徳島新聞より (8/24)

ウミガメ保護、意見交換 カレッタ30周年でシンポジウム 美波町の日和佐うみがめ博物館カレッタの開環30周年を記念したシンポジウムが23日、同町奥河内の日和

佐公民館であり、住民ら30人がウミガメ保護の歴史や活動の進め方について理解を深めた。カレッタの田中宇輝学芸員と日本ウミガメ協議会(大阪)の松沢慶将会長が講演した。田中学芸員は、2011~13年に大浜海岸に上陸したカメ8匹に発信器を取り付けて追跡調査した結果、周辺にとどまる個体と、他の海岸へ移動する個体とに分かれたことを指摘。「海岸を美しく保つことが、再上陸する個体の数を増やすことにもつながるのではないかと述べた。松沢会長は、旧日和佐町が1988年に開いた海亀国際会議がきっかけで協議会が発足したことを紹介。「保護活動発祥の地である美波町の取り組みは世界に誇れる。カレッタはその象徴的な存在として保護・調査や環境教育、観光を担ってほしい」と訴えた。講演後、影治信良町長や、保護活動を始めた日和佐中学校科学クラブで顧問を務めていた近藤康男さんから加わり、意見交換した。

読売新聞より (8/25)

ウミガメ4年連続誕生 姫路市立水族館：姫路市西延末の市立水族館でアカウミガメの卵が次々と孵化している。24日にも、1匹が殻を破って小さな姿をのぞかせた。同館は2012年から4年連続でアカウミガメの産卵、孵化に成功している。今年5月から7月にかけて、ウミガメプールで飼育している「ショウドシマ」と「クシモト」が合わせて400個余りを産卵し、この日誕生した赤ちゃんで8匹目。アカウミガメは、茨城県以南の太平洋岸や南西諸島に生息。産卵後、約2か月で孵化し、砂の中で数日間とどまった後、一斉に海に向かう。本館1階の展示室では、7月にかえった2匹(甲長5センチ、体重約30グラム)を10月25日まで展示している。飼育員の嶋大樹さん(23)は「赤ちゃんガメに会いに来て」と話している。

神戸新聞より (8/25)

アカウミガメ9匹ふ化、4年連続成功 姫路市立水族館：兵庫県の姫路市立水族館(同市西延末)でアカウミガメのふ化が相次ぎ、24日までに計9匹が誕生した。水族館でウミガメが自然産卵し、ふ化するの珍しいというが、同館では4年連続で繁殖に成功。10月25日まで、ふ化した赤ちゃんウミガメを数匹ずつ展示する。同館は2011年にウミガメプールの砂場を約4倍に拡大。水中からのスロープもなだらかにした結果、翌年から自然産卵、ふ化が続いている。昨年までに71匹がふ化し、うち約40匹を太平洋に放流した。今年5月末から、2匹いるメスが水中や砂場で計428個を産卵したのを確認。7月11日~8月24日に砂場で4匹、ふ化装置などで5匹が生まれた。24日には一日で3匹が誕生。直計4センチほどのピンポン球のような卵の殻を割り、ちょこんと顔を出した。3匹の甲長はそれぞれ約4センチ、体重は約15グラム。同館では現在、約100個をふ化装置で温めており、今後も誕生が期待できるという。飼育担当者は「砂場整備の成果。今後も繁殖を成功させていきたい」と話している。

宮崎県 井上様より (8/25)

ウミガメの死体について突然のメールで失礼しま

す。何度か電話をしましたがご不在のようでしたのでメールでご報告させていただきます。宮崎県延岡市熊野江町の浜辺にてウミガメの死骸を発見しました。8/22時点で虫なども来てなくて息絶えたばかりのようでした。8/23再度写真を撮るために行ったら腐臭と虫が集っていました。人があまり来ないような浜辺でしたので、今回の台風で流されていなければまだあると思います。ご報告まで。いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

宮城県 矢倉 浅黄様より (8/28)

宮城県南三陸町の清水浜にてオサガメと思われる個体が発見されました。写真を送らせていただきますので、お手数ですが同定をよろしくお願いたします。事務局より：いただいた写真にはオサガメが写っており、甲長は約1.3mでした。

沖縄県 嘉陽 宗幸様より (8/30)

国頭村与那で子ガメのロードキルがありました。与那トンネル近くの砂浜で、7月12日にアカウミガメの産卵があった所です。外灯に誘引される可能性があるために、対策を実施する予定でしたが、予想よりも早く子ガメが脱出してしまい、4個体が路上に出て轢かれてしまいました。脱出の現場は見えないため、何匹が路上に出てしまったのか不明です。

西日本新聞より (9/1)

■ウミガメ速報 15-12(10/1)

「第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉」のご案内?参加申し込みは10月13日まで延長しました。発表申込み&要旨は10月10日までにお願い致します。今年関東初の千葉県一宮町での開催です。一宮町は都心に近い場所にありながら、意外にも毎年アカウミガメが産卵に訪れます。会議では千葉県で活動する団体をはじめ、全国のウミガメ関係者が集まります。生き物や自然が大好きな方ならどなたでも参加できます。北限の産卵地で皆様とカメ談話ができることを、心より楽しみにしております。日付 11月27日(金)~11月29日(日) 場所 ホテル一宮シーサイドオーツカ。問合せ NPO法人日本ウミガメ協議会 附属黒島研究所。電話0980-85-4341,E-mail:kuroshima@umigame.org

匿名の方より (8/29)

ウミガメを偶然見つけました。動かなかったのもししたら死んでいるかも知れません。青森県三戸郡階上町の海沿いです。事務局より：いただいた写真には死亡漂着したとみられるアカウミガメが写っていました。

松本 かおり様より (8/30)

8月29日3時半頃、千葉県旭市三川の海岸で亀の死体を見つけました。甲羅の長さは43cm位です。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

鹿児島県 タートルクルー 久米満晴様より (8/31)

先日、中種子調査員の笹川さまより下記番号の産卵を種子島で発見したと連絡を受け、協議会へ連絡するのが遅れていました。タグは黄色で、番号は6420です。事務局より：放流情報は下記の通りです。産卵、放流日：2015年6月28日、場所：鹿児島県種子島長浜、標識：左前肢6420、右前肢8815

沖縄県 内田 秀雄様より (9/1)

はじめまして。この季節宮古島の高野漁港の西側の浜を毎日夕刻散歩していますが、先日海がめの上陸に遭遇しましたので報告いたします。日時：8月13日18：50~(大潮、満潮時)、場所：沖縄県宮古島市高野漁港西側の浜、産卵のための上陸と思われます。一生懸命穴を掘っていましたが、接近すると後ろを向く回避行動が見られたので早々に立ち去りました。翌日同時刻ごろ確認にいったところ、無事海に帰った跡がありました。この浜は過去に子亀が海に向かうところや産卵跡を数回目撃しています。今シーズンでは今回が4回目の上陸跡遭遇です。私はダイバーで宮古島でのダイブ中はもちろん、海浜でも海亀の死体に遭遇することがありました。今まではどこに報告したら良いか判らずどこにも報告していません。これから出来るだけ報告しますのでよろしくお願い致します。事務局より：いただいた映像には産卵後と見られるアオウミガメが写っていました。

西日本新聞より (9/1)

ウミガメもうすぐ旅立ち 岡垣町の三里松原海岸 [福岡県]子ガメさんたち、出ておいでー。アカウミガメの産卵地として知られる岡垣町の三里(さんり)松原海岸で、ふ化した子ガメが一斉に大海原を目指す時が近づいている。9月上旬とみられており、海岸では旅立ちをみんなで見守ろうと、夜の観察会が開かれている。町から調査を委託されている「岡垣ウミガメ倶楽部」(浜田孝会長、15人)によると、7月10日に同海岸で2年連続の産卵を確認。高潮による水没を避けるため、メンバーが同海岸内の汐入川河口付近に卵99個を移し、防護柵を設け代で見守ってきた。子ガメが地上に現れる日が迫ったことから、観察会を8月30日にスタート。午後8時ごろ姿を見ることが多いため、同7時から2時間ほど実施している。ウミガメは光と音に敏感なため、砂に向けビデオカメラと音波探知機を設置。少し離れた場所のモニターで様子を映し出し、倶楽部のメンバーがウミガメの生態などについて解説している。30日夜には、水間祥郎副会長(71)が見学者に「子ガメが力を合わせて砂を一生懸命かき、一斉にはい上がってくる様子は何度見ても感動する。毎回たくさんの地元の人がエールを送り、海へと送り出している」と説明。戸畑区から家族3人で訪れた中原中2年松岡巧君(14)は「子ガメの旅立ちが見られる貴重な機会。もう一度ここに来て、その瞬間を見守りたい」と語った。

えん乗りより (9/1)

94匹の子ガメが、海へと旅立ちましたー鴨川シーワールドで保護されていたアカウミガメの卵がふ化

鴨川シーワールドの「ウミガメの浜」で保護されていたアカウミガメの卵から94匹の子ガメがふ化し、8月30日の18時頃に海へと旅立った。鴨川シーワールドでは、ふ化に適さない場所に産卵されたウミガメの卵を同施設内の「ウミガメの浜」に保護収容し、生まれた子ガメを海に放流している。今回、海に旅立ったアカウミガメの子ガメは、7月8日の朝に鴨川シーワールドの目の前の東条海岸で産卵が確認された卵から孵化したもの。産卵場所が波打ち際に近く、台風の接近で波をかぶる危険性が高かったため、その日の夕方110個の卵が「ウミガメの浜」に保護された。8月29日の21時頃に砂の中から這い出してきた子ガメたちは、翌8月30日の18時頃に「ウミガメの浜」施設内の砂浜から海岸の遊歩道を越え、飼育係特製の橋を自力で渡り、波間へと姿を消していった。東条海岸ではアカウミガメが毎年産卵のために上陸し、今年は3回の産卵が確認されている。今後も子ガメが誕生する予定があるため、鴨川シーワールドでは引き続き観察を続けていくとしている。

愛知県南知多ビーチランド 廣田 大輔 様 より (9/3)

本日、一般の方からウミガメの漂着情報がありましたので、連絡いたします。発見日時：2015年9月3日午前、発見場所：愛知県知多郡南知多町山海247の海岸、発見状況：漂着、標識：有り、右前肢：Y4202黄色、左前肢：ピットタグ（番号：392145000224967）、処置：埋設、甲長84.7cm、甲幅64.6cm、写真：有り、事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っており、標識番号から鹿児島県屋久島から放流された個体であることがわかりました。

和歌山東漁協 様 より (9/3)

定置網でウミガメの混獲がありました。標識を確認してすぐに放流しました。番号は8063と8064でした。事務局より：小笠原母島で、クラブノア母島により放流された個体でした。放流日：2015/8/14、種：アオウミガメ、雌雄：メス、直甲長93.8cm、直甲幅71.5cm、体重124kgとのことです。

琉球新報より (9/4)

サイパンからウミガメ漂着 国頭村伊地、甲羅にGPS絶滅危惧種のアオウミガメの雌がサイパンで産卵した後、国頭村伊地の海岸へ流れ着き、死亡しているのが確認された。サイパンにいたウミガメが2千キロ以上離れた日本へ漂着した記録は珍しい。ウミガメの甲羅には、米海洋大気圏局（NOAA）のGPS付き衛星タグが付けられていた。アオウミガメの移動経路や生態は未解明な部分が多く、保全につながる貴重なデータとして期待される。ウミガメは甲羅の長さ102・6センチ、幅76・8センチの大型。米側への確認によると、6月1日にサイパンで産卵し2カ月半後の8月16日、伊地の海岸で発見された。死因や死亡時刻などは不明だ。発見者から連絡を受けた日本ウミガメ協議会会員の嘉陽宗幸さん＝国頭村＝が同日、琉球大のウミガメ研究会の学生と現場で確認し、沖縄美ら島財団（本部町）が一時的保管することになった。放流者の権利を尊重し米国の送付先を確認した

上でNOAA側へ送る予定。記録の共有や生態解明が期待される。過去には2007年11月にパラオで産卵したアオウミガメ2匹が読谷村の定置網で捕獲された例がある。美ら島財団・総合研究センターの河津勲係長は「アオウミガメの移動や生態の特徴が分からないと、どうすれば保全できるのか分からない。記録をどんどん保管していくことが重要だ」と今後も海外の研究機関との情報交換や記録の蓄積を進める考えを示した。

千葉県立中央博物館分館海の博物館 柳 研介 様 より (9/4)

9月4日、以下のとおりアオウミガメの死亡個体の漂着がありましたので、情報提供いたします。なお、本情報は勝浦市農林水産課から千葉県の勝浦水産事務所に報告を上げてあります。発見日：2015年9月4日、発見者：当館職員、発見場所：千葉県勝浦市鶴原海岸（35.135305N,140.276426E）、種名：アオウミガメ、SCL：405 mm、MCL：401 mm、SCW：326 mm、写真を添付します。タグ等は確認されませんでした。当該個体は本日現場にて埋設処理しました。

アクアワールド茨城県大洗水族館 徳永 幸太郎 様 より (9/4)

ウミガメの混獲とタグ付け放流が2件ありましたのでご連絡致します。1個体目、発見日：2015年9月1日、種：アオウミガメ、直甲長41.6cm、甲幅35.8cm、体重9.4kg、右前肢に55260（プラスチック）、左後肢にJP59795（金属）のタグを装着して9月3日、当館前の海岸から放流しました。2個体目、発見日：2015年9月3日、種：アオウミガメ、直甲長39.2cm、甲幅34.8cm、右前肢に55261（プラスチック）、左後肢にJP59796（金属）のタグを装着して、9月3日、当館前の海岸から放流しました。

毎日新聞より (9/6)

ウミガメの夢：砂の芸術と映像で表現 新江ノ島水族館 / 神奈川藤沢市の新江ノ島水族館で、砂で描く芸術（サンドアート）と特殊な視覚技術（プロジェクションマッピング）を使い、ウミガメの一生を映像表現する催し「ウミガメの夢」が行われている。夜の水族館の新たな楽しみ方を演出している「ナイトワンダーアクアリウム」の一環。ウミガメの飼育展示や繁殖活動に力を入れている同館が、オリジナルコンテンツとして初めて企画した。江の島を望む浜辺で生まれたウミガメが、タツノオトシゴやクラゲなどさまざまな生き物に出会いながら成長し、再び故郷の浜辺に戻って産卵し、新しい命が誕生する??というストーリー。各場面を砂で描きながら表現し、現れては消えるように幻想的に展開される。屋外の飼育展示施設「ウミガメの浜辺」で、砂浜と壁面の2カ所に投影され、上映時間は約10分間。日没後の午後6時20分ごろから同8時まで随時上映されている。12月25日まで（10月17日休催）。

西表野生生物保護センター 日名 耕司 様 より (9/9)

ウミガメの漂着個体（死亡）が発見されたので報告します。発見日：2015.09.09、発見者：観光客、場

所：沖縄県西表島南風見田の浜 (N24°16.356 E 123°49.777)、種別：アオウミガメ、標準曲甲長：97.0 cm、最小曲甲長：96.0cm、曲甲幅：86.5 cm、計測方法：メジャー、ほぼ骨と皮だけの状態で。未消化の海草の塊が少し残っていました。

タウンニュースより (9/10)

ウミガメふ化を確認：平塚市博物館は、平塚海岸で2年ぶりにアカウミガメのふ化を確認したと発表した。6月24日、海岸を訪れた釣り人から「ウミガメの足跡らしき砂跡がある」と連絡を受けた同館は、県土木事務所、新江の島水族館らに連絡を取り、現地を訪れた。海から続く足跡の先に卵を確認した職員らは、ふ化の記録装置を設置し、海岸を後にした。装置データから推定される脱出日は8月23日。8月31日に行われた調査で、152個の卵のうち、抜け殻は110個確認された。アカウミガメの細かい生態はまだ判明しておらず、同館は「平塚海岸で産卵する理由は不明だが、良い海環境だということでは」と推測する。アカウミガメの産卵地域の北限は静岡県御前崎とされているが、相模湾では1960年頃から観測され、平塚市では2008年から継続的に産卵が確認されている。また同館は「卵や子亀を見付けても、光を当てたり触れたりしないで」と呼びかけた。

長崎県西海市大瀬戸町 渡辺督郎・美佳さまより (9/12)

今年夏、後ろの浜に上陸したウミガメ情報、産卵については、7月に少しご連絡していましたが、その後の情報、遅くなりました。現在の様子も含めて今年の夏のウミガメ情報をお知らせ致します。2015年は6回の産卵があります。①6月7日産卵、8月22日ふ化 (23日の朝、子カメ足跡多数確認)、②6月29日産卵、8月23日ふ化 (夜9時半頃から深夜にかけてふ化を確認)、③7月16日産卵、ふ化9月7日 (8日の朝、子カメ足跡確認その日から数日かけてふ化した模様)、④8月1日産卵、⑤8月15日産卵、⑥8月16日産卵、その他上陸跡が8月16日の朝に2回確認されました。今年上陸のカメの大きさは砂に残る足跡から、胴体の幅が、30cm位や20cm位のものでした30cm位の方が多かったようです。同じカメかどうか分かりません。2002年にふ化を確認して以来のふ化確認です。今年の上陸回数と産卵回数は近年になく多いので驚いています。ちょうどタイミングよく②のふ化を地元小学生や住民100人ぐらいで見送りました。地元の方や、サーファー仲間のネットワーク、ウミガメファン、皆さんの見守りがあって順調にふ化しているようです。

中日新聞より (9/13)

下田はウミガメ産卵地 学生ら保全訴え絶滅危惧種アカウミガメの産卵地になっている下田市の砂浜保全を考える東京都市大環境学部 (横浜市都筑区) の学生が、有識者を招いた市民向け勉強会を下田市民文化会館で開いた。地元が産卵地と知らない人も少なくないため、学生は市民への啓発とともに保全の枠組みづくりを模索している。首都圏の学生たちが下田の砂浜環境を課題にしているのは、ゼミ合宿で下田を訪れた五年前の出来事がきっかけ。アカウ

ミガメの子ガメが海岸そばの自動販売機の周りで死んでいた。子ガメは光に向かう習性があり、海と逆方向に進んだためだった。以来、ゼミは「人とウミガメ双方にとって理想の砂浜」をテーマにしている。*****
神奈川県岡田真人様より (9/13)

8月29日に、千葉県館山市伊戸海岸にて、複数のウミガメの骨を見つけました。また、8月31日には、館山市館山湾の陸けい島「沖の島」の一番外側の海岸と、鴨川市江見海岸にて1つずつカメの骨が落ちていました。

中日新聞より (9/15)

25匹が巣立ち 津、ウミガメのふ化始まる津市の三重大学東側の栗真町屋海岸の工事現場で、八月下旬からウミガメの卵がふ化が始まった。今月十一日までに、二十五匹の赤ちゃんガメが大海原へと旅立った。栗真町屋海岸では、老朽化した海岸堤防の改良工事中。三重大ウミガメ・スナメリ調査・保全サークル「かめっぷり」のメンバーが、六月一日にウミガメの産卵を確認した。工事をしている四日市港湾事務所は、産卵場所を守るため仮堤防の位置を変更した。かめっぷりと、ウミガメ保全団体「ウミガメネットワーク」は、子ガメが安全に海へたどり着けるよう、産卵場所と波打ち際の間の砂をならし、ごみ拾いに努めた。かめっぷりによると、八月二十六日の午前八時ごろ、十二匹がふ化して砂から脱出。十一日までに九十五個の卵から二十五個体がふ化し、ふ化率は26・3%だった。かめっぷり代表の喜多晃平さん (21) は「全滅せずに巣立ってくれて良かった。これからも三重の海岸でウミガメが産卵してくれるよう祈っている」と話した。

神奈川県岡田真人様より (9/16)

9月14日に、千葉県館山市伊戸海岸にて、またまた複数のウミガメの骨を見つけました。

■ウミガメ速報15-13 (10/17)

「第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉」のご案内?発表の申し込み&宿泊の予約は締め切りました。会議の見学や砂浜観察会への参加はできますので、お気軽にご連絡くださいませ!! 今年は関東初の千葉県一宮町での開催です。一宮町は都心に近い場所にありながら、意外にも毎年アカウミガメが産卵に訪れます。会議では千葉県で活動する団体をはじめ、全国のウミガメ関係者が集まります。生き物や自然が大好きな方ならどなたでも参加できます。北限の産卵地で皆様とカメ談話ができることを、心より楽しみにしております。

鹿児島県かわばた様より (9/15)

標識の付いたウミガメが網にかかったとの連絡がありましたので、報告します。発見日2015/9/15、発見場所：鹿児島県下甕町青瀬の大型定置網、状況：混獲、標識：黄色 J P N 6072、白色 (番号控えず)、大きさ：不明(かなり大きく4人がかりで持ち上げた)、処

置：生きていたのでそのまま放流、事務局より：この個体はクラブノア母島さんより、2015年8月14日に放流された個体でした。

奈良県 ミツイリュウイチ様より (9/22)

はじめまして。ミツイと申します。先日、沖縄県に行った際ウミガメの死骸を発見いたしましたのでご報告いたします。当時、ウミガメの死骸があればこちらにご連絡することを知らずに日数経過しましたことお許しください。発見：2015年9月20日、場所は、沖縄県名護市の幸喜ビーチから国道58号線を許田インター方面に走ったら次の左手にある駐車場？から降りれるビーチです。言葉では説明しにくいので緯度経度で、示すことに致します。緯度経度はコチラです。緯度経度 26.544586, 127.952147、お手数ですがグーグルマップの検索窓にコチラの数値を入力いただくとピンポイントで場所が表示されるはず。死骸については、素人ですのでまじまじと観察はしていませんが撮影はしておりますので、添付いたします。素人の感想としまして口からの出血、目玉などは虫たちに食べられたのでしょうか？なかったように見えます。また、甲羅の一部が剥がれかけておりました。それくらいしか分かりませんが何かのお役に立てればと思います。よろしく願いいたします。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

匿名の方より (9/22)

ウミガメのストラディングを発見しました。足場が高く近づけませんでした。体長60センチ位ありそうです。発見場所は石川県輪島市通ヶ鼻近くの磯です。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメが写っていました。

石川県のとじま水族館 池口 新一郎様より (9/23)

ウミガメが混獲され保護しました。発見日：平成27年9月22日、発見場所：石川県七尾市江の泊、種：アオウミガメ、生死：生、標識：無し、直甲長：37cm、直甲幅：31cm、備考：衰弱が見られるため保護する。

岩手県もぐらんぴあ・まちなか水族館 日當様より (9/26)

標識のついたウミガメが捕れたとの連絡がありましたのでご連絡いたします。捕獲日：2015/9/24、場所：岩手県久慈市侍浜の定置網、捕獲時の状況：生存、右後肢のプラタグ脱落。事務局より：この個体は東京大学大気海洋研究所の福岡拓也さんにより放流された個体でした。放流情報は下記の通りです。放流日：2015/9/1、放流場所：岩手県上閉伊郡大槌町大槌湾内、SCL: 41.4 cm、SCW: 35.0 cm、体重: 11.5 kg、種：アオウミガメ、標識（ジャンボブルー）：左前肢-97466、右後肢-97467、標識（インコネル）：右前肢-4884-A、左後肢-4885-A

沖縄県 安芸 保美様より (9/29)

本日、西表島の原港にて海草に絡まって打ち上げられた子ガメを発見しましたので、連絡いたしま

す。事務局より：環境省西表野生物保護センターに対応をお願いし、元気そうだったので、リリースしたとの連絡をいただきました。また、いただいた写真にはタイマイが写っていました。

リセマムより (10/1)

鴨シー秋の特別イベント、ウミガメふれあい体験を実施：千葉にあるレジャー施設「鴨川シーワールド」は、10月～11月の土日祝日限定で秋の特別イベント「特別レクチャー&ウミガメふれあい体験」を実施する。レクチャー、ふれあい体験ともに事前申込みは不要となっており、入園料金のみで参加費は無料。1970年に開業し10月で45周年を迎える同施設は、「海の世界との出会い」を展示テーマに掲げ、生命の輝きとありのままに向き合うことで心と体でふれあう喜びを届けたいと海の世界をリアルに再現した展示環境を提供している。また4つの取り組みとして教育活動・野生生物の保護活動・飼育下繁殖の推進と研究・地域との連携を大切にしているという。開業月記念として行われる特別イベント「特別レクチャー&ウミガメふれあい体験」では、種保存活動となる傷病個体やアオウミガメ卵の保護など長年取り組んできた海の動物たちの保護活動について飼育員のレクチャーが行われ、終了後には生命の重さを体感してもらおうと、隣接した東条海岸で実際に保護された卵からふ化したアオウミガメの子ガメに直接触れ合える「ふれあい体験」を用意している。

ペルー・リマの ジョアンナ・アルファロさんより (10/15)

親愛なるウミガメコミュニティの皆様へ。これより、2016年2月29日 - 3月6日にペルーのリマにて開催いたします、第36回国際ウミガメシンポジウムに参加受付をはじめますことを、ご案内申し上げます。はじめに、以下のサイトで国際ウミガメ学会 (ISTS) のアカウント登録をお済ませください。これで、シンポジウムに参加登録サイトへログインしていただけるようになります。早期申し込みと学生には参加費を特別割引しますので、どうぞお見逃しなく。早期参加申し込みと講演要旨提出のメ切りは2015年10月15日 (木) となっております (注) 10月20日 (火) まで延長となりました by 松沢)。旅費助成の申し込みメ切も同様です。助成お申込みのご予定の方は、参加申込と講演要旨のご提出も、どうぞお早めにお済ませください。シンポジウム開催期間のはじめの2日間には、海棲哺乳類、海鳥、サメなど、複数の分類群のワークショップも予定されておりますので、こちらのリストにもご注目ください。それでは、皆様にペルーでお目にかかれまことを心待ちにしております。第36回国際ウミガメシンポジウム大会実行委員長 国際ウミガメ学会 会長 ジョアンナ・アルファロ

沖縄タイムス (10/15)

事故死した母ウミガメの「忘れ形見」 体内から取り出した卵ふ化 (2015年10月14日)：8月に大宜味村の国道58号で車にひかれて死んだアオウミガメの体内から80個の卵が取り出され、このうち16個が人

工ふ化した。沖縄美ら島財団（本部町）が13日、発表した。14日夜、事故現場に近い喜如嘉の浜で放流する。事故翌日の8月17日、財団の総合研究センターがカメを解剖し、卵を取り出した。卵を温めるふ卵器に入れ、54日後の今月10日からふ化が始まった。ふ化は今後も続く見込みだが、80個のうち、半数ほどは失敗した。センターの河津勲博士は「事故の衝撃もあっただろう。死んだ母ガメの卵がふ化した事例は世界的にも確認されていない」と説明する。母ガメの「忘れ形見」の誕生に「とても喜ばしいが、今後はこのような悲劇が起きないように、各地で道路と砂浜を遮る必要がある」と話した。

紀伊民放（10/17）

すさみの海岸でウミガメふ化 18匹を一時保護、放流：和歌山県すさみ町江住の江須の川海岸で12日、アカウミガメのふ化が確認された。同海岸でのふ化の記録はない。巣穴から出られなかった18匹を町立エビとカニの水族館が一時保護、地元住民らが見守る中、放流した。子ガメを最初に見つけたのは見老津小学校5年の藤内柊登君（10）。父親の一真さん（52）と一緒に来ていた。午前7時半ごろ、砂浜で何か動くのに気付く、子ガメ1匹を確認。海に返した後、エビとカニの水族館に連絡した。同水族館スタッフの平井厚志さん（32）らが波打ち際から約15メートルの地点にある巣穴を掘り返し、自力で出られなかった子ガメ18匹を保護した。甲羅の長さ4センチほど。卵殻を調べたところ、124個のうち、101個がふ化していた。昼間は鳥や魚などの天敵が多いため、夕暮れを待って放流。平井さんは「この海岸の匂いを覚えていて、20年後、30年後に産卵で帰ってきてくれるかもしれない」と説明し、地元住民らが子ガメを砂浜に放して行方を見守った。同海岸では2011年に産卵が確認されたが、未熟卵だったためふ化しなかった。平井さんは「この海岸も見回しているが産卵に気付かなかった。8月の台風直前か最中に産卵して高波で痕跡が消されたのだろう」と話した。

■ウミガメ速報15-14（12/7）

第26回日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉のお礼

関東初となる一宮町での開催は、イベントも含めると3日間でのべ1200人の利用がありました。LION、三菱重工、カネテツデリカフーズ、伊勢化学工業、大多喜・関東天然瓦期開発、CULINAIREをはじめ多くのご協賛を頂きました。大塚実 海と緑の基金のご支援も頂きました。そして、鴨川シーワールドは生きたウミガメ展示をしたいという依頼を快く引き受けて頂きました。一宮ウミガメを見守る会と一宮役場の皆様には、準備から当日の運営まで大変お世話になりました。会議の参加者とサポートして頂いた多くの皆様には、心より御礼申し上げます。次は、高知県室戸で開催します。産卵は少ないですが、ウミガメ混獲調査が10年以上も継続されています。漁師さんたちからみた一味違ったカメ話が聞けることでしょう。

神奈川県岡田真人様より（10/26）

大潮には少し早いのですが、千葉県館山市伊戸海岸近くの漁港の網干場でウミガメの骨を発見しました。事務局より：いただいた写真にはアオウミガメの腹骨板が写っていました。

福井県海浜自然センター宮田克士様より（10/27）

本日、下記の通りアオウミガメ1個体の入網がありましたので、お知らせします。種：アオウミガメ、発見年月日：2015年10月27日、発見場所：福井県若狭町世久見大敷、状態：活、測定者：宮田克士、計測器具：カメ用ノギス、最小直甲長67cm、直甲長67.5cm、最大直甲長68.5cm、甲幅54cm、体重：不明、性別：不明、標識：なし、備考：活力があったため計測後放流

神奈川県岡田真人様より（10/28）

千葉県館山市伊戸海岸に本日も訪れたところ、背甲の縁の骨がありました。

匿名の方より（11/3）

千葉県一宮町東浪見海岸で先ほどウミガメの死体を発見しました。駐車場につながってる鳥居の突堤の右側にいました。何かの研究になればと思い、こちらにメールいたしました。事務局より：いただいた写真にはアカウミガメが写っていました。またエバーラスティングネイチャーさんに対応を依頼しました。

TABILABOより（11/6）

海岸に残るウミガメの足跡。それは彼らの「悲鳴」だと、知っていますか？愛知県・渥美半島の南側に位置する表浜海岸。ここは約50kmにわたる長浜で、自然も豊富。古くから絶滅危惧種のアカウミガメが産卵に訪れる場所として有名でした。しかし近年、安全だったはずの海岸が、彼らにとって危険な場所になっているといいます。その理由は海岸の人口化により、テトラポットなどのブロックが設置され、砂浜の減少が進んでいるから。砂浜に上陸することさえ困難なウミガメが、産卵し、また同じ道を辿って海に戻るの、まさに命がけの行為。行く手を阻まれた彼らは、何度も迂回を試みたり、延々と続くブロックに沿って何時間も移動したりせざるを得ないのです。産卵のピークである夏には、このようなタートルトラックと呼ばれる足跡が多く見られるといいます。これは、ウミガメの「悲鳴」と言っても過言ではありません。

中日新聞より一部抜粋（11/6）

教科書のウミガメだよ 名港水族館、研究掲載で学習ツアー実施へ：名古屋港水族館（名古屋市港区）のウミガメの生態研究が小学四年の教科書に取り上げられたことを有効活用するため、同館は二〇一六年度、教科書を使う県内の児童たちを招き、ウミガメの飼育現場を直接体験できる「学習ツアー」などを実施する。小学四年生の国語教科書「ひろがる言葉 下」（教育出版）では、名港水族館が一九

九二(平成四)年の開館時から、絶滅の恐れがあるウミガメの研究を進め、九五年に世界で初めて屋内の人工繁殖に成功するなど実績を残したことを紹介。同館で生まれたウミガメが、田原市で放流された十三年後に長崎県対馬市で捕獲されたことなど、生態研究の成果を通して命の大切さを学ぶ内容になっている。

千葉県森谷香取様より(11/7)

11月4日、いすみ市の太東漁港脇砂浜にアカウミガメの死骸2体が漂着しました。市民より通報あり、ウミガメ保護監視員・森谷、および農林水産課水産振興班職員2名(いすみ市ウミガメ保護活動は以上3名が担当)が現地に行き確認しました。1. 標準直甲長873mm、直甲幅 700mm、タグなし。2. 標準直甲長737mm、直甲幅596mm、タグなし。なお、まだ9月12日産卵巣がありますので、毎朝の見回りと付近に漂着した流竹木のかたずけとゴミ拾いをつづけています。高台に産卵しているため陽当たりと水はけもよいので孵化・脱出を期待しています。(過去に、11月2日に稚ガメが海に旅立つのを観察していますが、11月中旬は例がありませんけれど)

猪野真里様より(11/9)

はじめまして。2015年11月4日に千葉県館山市の沖ノ島手前の海岸にてウミガメの死体を発見しました。その時携帯のカメラで撮った写真です。かなり腐敗が進んでいました。大きなカメだったので、気になってとりあえず連絡しました。事務局より：いただいた写真には大きなアカウミガメが写っていました。また、エバーラスティングネイチャーさんに対応を依頼しました。

徳島県阿南市文化振興課 阿部 直樹様より(11/10)

阿南市の海岸にウミガメの死体が漂着しましたので、調査記録を送付します。発見日：2015/11/8、発見場所：徳島県阿南市北ノ脇海岸、種：アカウミガメ、サイズ：曲甲長約80cm、曲甲幅約50cm、状況：フジツボが多数付着

千葉県岡田美穂様より(11/11)

先週の6日金曜日に南房総市の三嶋海岸(千歳P)にカメの死骸が漂着しました。写真は昨日撮影したものです。この海岸には産卵に毎年、またはそうでない年もありますがウミガメを多く目にするシーズンがよくあります。死骸もそうですが、昨年と3年前は上手く孵化されなかったところもありますが何箇所か上手く孵化されていきました。この協議会のこと気になっていたので画像を送ります。家の下の海です。事務局より：いただいた写真には大きなアカウミガメが写っていました。また、エバーラスティングネイチャーさんに対応を依頼しました。

福井県海浜自然センター 宮田 克士様より(11/11)

また新たに、下記の通り1件のウミガメの定置網への入網情報がありましたのでお知らせいたします。種名 アオウミガメ、発見年月日 2015年11月8日、発見場所 福井県大飯町大島定置、状態 活、漁業者が標

識を控えた後、その場で放流したため、甲長等の測定記録なし。標識番号 右後肢：97969 左後肢：97970 事務局より：この個体は石川県のとじま臨海公園水族館により放流されたものでした。いただいた放流情報は下記の通りです。放流日：2015年11月3日、放流場所：石川県志賀町の砂浜、種：アオウミガメ、雌雄：♀、標準直甲長83.0cm、最小直甲長76.0cm、直甲幅65.0cm、体重100.6kg、標識：プラスチック青、97969、97970

長崎県五島水産業普及指導センター 前川 秀樹様より(11/16)

下記の状況で、発信機(データロガー?)付きウミガメが再捕されましたので、報告します。状況写真は撮影されていないとのことです。再捕日：2015.11.16、場所：長崎県五島市三井楽町高崎沿岸、甲長：約50cm、重量：約10kg、再捕の状況：定置網に入網。生きていたため、発信機を取り外し放流。事務局より：この発信機は黒島研究所にお送りいただいたのですが、2015.12.3現在放流者がわかっておりません。海外から放流された可能性もあり、現在問い合わせ中です。

千葉県森谷香取様より(11/17)

千葉県いすみ市海岸に「アカウミガメ」の漂着死骸が4個体ありましたので報告します。1. 11/11、いすみ市日在浦、市民発見、直標準甲長840mm、直甲幅665mm、白化、タグなし、2. 11/12、いすみ市和泉浦、森谷発見、直標準甲長640mm、直甲幅530mm、白化、タグなし、3. 11/12、いすみ市ボケツトビーチ(矢指戸浜)、市民発見、直標準甲長750mm、直甲幅623mm、タグなし、4. 11/12、いすみ市太東灯台下砂浜、市民発見、直標準甲長810mm、直甲幅642mm、タグなし。

京都府農林水産技術センター海洋センター 上野陽一郎様より(11/18)

漁業者からタグのついたウミガメ類の再捕報告がありましたのでお知らせします。再捕日：2015.11.15(朝)、場所：京都府の大型定置網(135度29.4分、35度35.8分付近) タグ番号：JPN7125、漁業者に説明しますので、種、大きさ、放流日時、放流場所などの情報を教えてください。事務局より：標識番号より種はアオウミガメとわかりました。なお、この個体はこれで5回目の入網になります。1回目と3回目の時に甲羅の長さを測定し、いずれも68cmほどでした。履歴は次の通りです。1. 2015/8/10、鹿児島県野間池しろせ定置網、甲長：68.7cm、2. 10/19、福井県大飯町大島定置、3. 10/22、福井県美浜町 丹生定置、甲長：68cm、4. 11/14、福井県高浜町和田 定置網、なお、1は宮内叶様、2と3は福井県海浜自然センター、4は和田漁協様から情報をご提供いただきました。

毎日新聞より一部抜粋(11/19)

アカウミガメ：生態DVDに 岡垣の保護団体、小学校に配布も岡垣町の町民グループ「岡垣ウミガメ倶楽部(くらぶ)」(濱田孝会長、14人)は、町内

の三里松原海岸に上陸するアカウミガメの生態をまとめたDVDの製作を進めている。町民による保護活動が始まって20年余りが経過し「ウミガメや海岸の大切さを幅広く訴えよう」と企画した。子供と大人向けの2種類計250枚を小学校などに無料配布する予定で、濱田会長は「ウミガメが産卵を続ける岡垣の自然の素晴らしさを伝えたい」と話す。卵の移動や砂の中から子ガメがはい出す瞬間など会員が撮りためた保護活動の様子に加え、カメが太平洋を回遊しながら成長し、数年後に海岸に戻って産卵するとみられることなど、生態に関する説明映像も加えた。ナレーションは町民劇団で活動する小学生が担当した。

読売新聞より（11/19）

アカウミガメ上陸24匹。県内有数のアカウミガメの上陸・産卵地として知られる阿南市椿町の蒲生田海岸に上陸した今シーズンのアカウミガメは延べ24匹で、7回の産卵が確認されたことが地元のウミガメ調査員の報告でわかった。昨年の上陸数3匹から、大幅に回復した。同海岸では上陸シーズン前に、住民ら約100人が海岸に漂着する木々やゴミを拾うなどしている。初上陸の足跡が見つかったのは5月22日で、同月には2匹が上陸。6月は13日から5日間連続で上陸するなど延べ7匹が産卵に訪れ、同月14日には海に戻る方向を間違えたカメが海岸のくぼ地に落ち、住民ら3人が救助するハプニングもあった。最盛期となる7月は延べ11匹で、8月は3匹、9月は1匹だった。

■ウミガメ速報15-15（12/20）

ワイルドジャパン 年末特番のお知らせ

当会も撮影に協力したNHK・BBC国際共同制作 ワイルドジャパンは、本日（12月20日）午後7時半よりNHK総合で放送されます。是非ご覧ください。

新江ノ島水族館より

えのすいトリーターがウミガメの食性や飼育方法、相模湾で見られるウミガメについて分かりやすく解説。給餌や甲羅タッチなど、ウミガメとふれあいが、間近で観察します。「ウミガにタッチ」は、土曜・日曜・祝日に、各日先着20名さま限定で開催するプログラムです。

長崎県五島振興局 新川様より（11/17）

長崎県五島市三井楽でアオウミガメが小型定置網によって混獲されました。衛星追跡発信機が装着されており、漁業者が発信機を回収後、再放流されました。甲羅の長さは、60?70cmほどだったそうです。事務局より：アメリカのwildlife computers社の発信機でした。同社に問い合わせたところ、製品番号より韓国の釜山水族館の研究者に送ったものでした。詳細は問い合わせ中です。

鹿児島県 組坂様より（12/1）

11月30日の月曜日に花渡川河口（座標31.269139, 130.286740）で、死んだばかりであろうウ

ミガメが見つかりましたので、報告させていただきます。事務局より：頂いた写真には、水に浸かった状態のアオウミガメが写っていました。

土佐清水市漁業指導所 こうの様より（12/2）

漁業者よりウミガメが混獲されていたという情報がありましたので、お知らせします。発見日：2015/12/2 朝、発見場所：高知県漁協 土佐清水統括支所 いぶり支所の定置、発見状況：定置網に混獲、タグ：100795、処置：生きていたため、タグNOを控えた後、すぐ放流した。事務局より、標識を確認したところ、当会の室戸基地より放流したものでした。放流日：2015.11.27、放流場所：室戸市椎名、種：アカウミガメ、体サイズ：標準直甲長75.5cm

千葉日報ちびとばより（12/2）

ウミガメが教える里山の姿 小さな命、見守り続ける... いすみ：「卵がふ化して、ウミガメの赤ちゃんが海に向かっています」。10月7日早朝、海岸をパトロール中のいすみ市ウミガメ保護監視員、森谷香取さん（73）の興奮した電話の声で飛び起きた。映像でしか見たこと・・・

福井県 八田様より（12/10）

2015年12月8日 午前11時ごろ、死んだウミガメを発見しました。場所は福井県南越前町（河野）甲楽城海水浴場です。腐敗激しく甲羅が見れませんでしたので種わかりませんでした。大体1m程です。

石垣自然保護官事務所 若松様、神保様より（12/10）

一般市民から前日（12月3日夕方ごろ）に死んだウミガメを発見したという通報があり現場に行ってきました。種：アオウミガメ、場所：石垣島 観音崎灯台周辺、体サイズ：曲標準甲長85cm、最小84.5cm、直甲幅65cm、標識なし、でした。尾は短かったためメスを思われます。

谷 様より（12/11）

12月11日14:00頃ウミガメの死体を発見しました。場所は和歌山県串本町の神野川（コノカワ）の河口左岸側です。カラスがたかかっていて、すでに頭部は無くなっていたように思います。甲羅の長さは約60センチほどだったと思います。事務局より：当会の平井が調査してまいりました。種：アオウミガメ、体データ：標準直甲長45.3cm/直甲幅38.6cm、状態：頭部のみ欠損、標識：なし。カラスが多く可哀そうだったので、埋葬してきました。

黒島研究所より（12/15）

日本ウミガメ会議 in いちのみや千葉でも発表されたアカウミガメの赤ちゃんは、現在も鹿児島県西部の東シナイ海を遊泳中です。[

うみがめニュースレターに投稿される方へ

本誌はウミガメに関する国内唯一の総合情報誌として、関連するあらゆる情報を取扱い掲載しています。記事は投稿を原則として、生物学的知見はもちろんのこと、うみがめに関わる民俗、保護、論評や意見などの他に、英文誌に掲載された論文の和訳なども含みます。形式は特に定めるものではありませんので、読者の皆様もどうぞお気軽にご寄稿ください。

この他に、査読を必要とする和文原著論文も受け付けます。原著論文を希望される方は、投稿時にその旨を編集委員にお伝え頂き、下記の投稿規定に従って原稿を書いて下さい。

なお、本誌はISSN番号の登録を受けた定期刊行物で、海外の研究者へも配布しております関係上、編集の際に英文の要旨とタイトルをつけております。予めご了承ください。

【うみがめニュースレターへの原稿送付先と本誌に関わる連絡先】

E-mail: newsletter@umigame.org

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

日本ウミガメ協議会内 うみがめニュースレター編集委員会 石原孝

原著論文の投稿規定

～専門家のチェックを希望されない方には関係ありません～

(2012年12月31日制定)

(2013年5月10日改定)

1. 投稿資格

うみがめニュースレター（以下、本誌）に投稿される原著論文は、原則として未発表のものとするが、うみがめニュースレター編集委員会（以下、本会）の協議により、特に有益と認められる場合はその限りではない。

2. 査読

本会の選任した 2 名の査読者によって、原稿の審査を行なうこととする。内容に問題があると判断された場合は、本会として著者にその旨を通知する。

3. 原稿の提出方法

本誌への投稿原稿は、E-mail による電子ファイルの送付を基本とするが、郵送でも可能とする。電子ファイルは、テキスト形式のファイルやマイクロソフト社製ワードなど標準形式のファイルを用いること。なお、郵送の場合でも、可能な限り電子媒体（CD-ROM など）に保存した電子ファイルを同封する。

4. 原稿の用語と表記

- 1) 原稿は日本語を用いて、1 ページの構成は 0 行 25 文字、24 行とする。句読点は、「,」「.」を用いることとする。
- 2) 本文中に最初に出てきた生物の種名は、標準和名と学名を併記し、標準和名はカタカナ表記、学名はイタリック体指定を行なうこととする。
例 アカウミガメ *Caretta caretta*
- 3) 本文中にて著作物を引用する場合は、次の表記に従うこととする。著者が 3 名以上の場合は和文では「ほか」、英文では「et al.」を用いる。
- 4) 地名はわかりやすい表現を用い、緯度経度の表記もしくは調査地を図示するのが望ましい。
- 5) 単位はメートル法を用いる。

5. 原稿の構成

原稿は原則として、「表題」（和文および英文）、「著者名」（和文および英文）、「代表者の連絡先」（和文および英文）、「英文要旨（Abstract）」、「Key words」、「はじめに」、「材料と方法」、「結果」、「考察」、「引

用文献」,「謝辞」,「表」,「図」の項目から構成することとする。なお、英文要旨は 300 words 以内、Key words は内容を適切に表現する英単語 5 つ以内とする。

6. 引用文献について

- 1) 本文中の引用文献の表記については下記の例を参考にすること。

例 鈴木 (1990) および田中・上田 (1995) は...
 ...との報告があるが (村田ほか, 2000 ; 大野, 1980a, b, 1983), ...
 ...である (Suzuki and Ueda, 1985 ; Tanaka et al., 1998)。

- 2) 文献の引用方法は下記の通りとする。なお、配列順は、第一著者の姓のアルファベット順、第一著者が同一の場合、第二著者のアルファベット順、以下第三以下の著者について、上記の指示に従うこととする。すべての著者が同一の場合は発表の年号順とし、同一著者、同一年に出版された著作物に関しては表題のアルファベット順に配列することとする。この際、同一著者、同一年に発表された著作物に関しては、配列順に「a」、「b」、「c」・・・の記号を年号の後ろに、2000a, 2000b のように付記することとする。
 雑誌などからの引用：氏名・年・表題・雑誌名 巻(号)：頁 - 頁。
 単行本からの全体引用：氏名・年・書名・出版社名, 所在地・総頁数。
 単行本からの一部引用：氏名・年・表題・引用頁・編集者(編) 書名・出版社名, 所在地。

例

Kamezaki, N. 2003. What Is a Loggerhead Turtle? The Morphological Perspective. p. 28-43. In: A. B. Bolten and B. E. Witherington (eds.) *Loggerhead Sea Turtles*. Smithsonian Books, Washington, D.C.

近藤康男 . 1968. アカウミガメ . 海亀研究同人会, 徳島 . 96p.

松沢慶将・亀崎直樹 . 2008. ウミガメ類におけるマーキング法 (特集 両生類・爬虫類におけるマーキング法). 爬虫両棲類学会報 2008(2): 133-137.

Matsuzawa, Y., K. Sato, W. Sakamoto and K. A. Bjorndal. 2002. Seasonal fluctuations in sand

temperature: effects on the incubation period and mortality of loggerhead sea turtle (*Caretta caretta*) pre-emergent hatchlings in Minabe, Japan. *Mar. Biol.* 140: 639-646.

宮脇逸朗 . 1994. 和歌山県串本町地先海域で捕獲されたウミガメ類とその直甲長について . p. 75-80. 亀崎直樹・藪田慎司・菅沼弘行 (編) *日本のウミガメの産卵地*. 日本ウミガメ協議会, 大阪 .

Spotila, J. R. 2004. *Sea Turtles: A Complete Guide to Their Biology, Behavior, and Conservation*. Johns Hopkins University Press, Baltimore. 227p.

7. 図・表

- 1) 図表はそのまま製版できるものとし、仕上がりサイズは半ページ幅、もしくは全ページ幅になることを考慮すること。
- 2) 図には下部に、表には上部に図 1. ...あるいは表 1. ...と図表ごとに通し番号を記し、図表の題名、説明文を記す。なお、本文を読まなくても理解できる程度の説明文を記入することとする。説明文は和英併記とする。
- 3) カラー図表は印刷版には適用不可であるが、PDF 版においては適用可能であるため、カラー図表を希望する場合は、投稿時にその旨を明記することとする。
- 4) 写真は図の扱いとする。
- 5) 図表が複数ある場合は、投稿時は 1 つずつ別のページに記すこととする。
- 6) 表および追記のテキストが含まれる図は、マイクロソフト社製エクセルに対応した形式のものを用いること。

8. 校正

校正は原則として、本会の責任の下に行なうこととするが、著者に校正を依頼する場合がある。

9. 別刷

PDF 版は無料で配布される。印刷版を希望する場合は、その旨を投稿原稿表紙に朱書きする。なお 10 部単位で受け付けるが、作製費と送料は著者負担とする。

10. 著作権

本誌に受理され、掲載された全ての内容の著作権は本会に帰属する。

■編集後記

日本のアカウミガメに関わる者として、今後が非常に気にかかる出来事がいくつかありました。最も気になっているのが産卵巣数の大幅な減少です。全国各地の方々の調査結果をまとめた日本ウミガメ会議では、2014年比で51%に過ぎないことが報告されていました。ウミガメの産卵巣数は、前後の年に対して増減を繰り返すのが普通ですので、これだけであればそう慌てることもないのかもしれませんが。しかし、2014年も2013年に比べて63%に減っており、2015年は2013年に比べると3割強でしかありません。これが一時的なものであり、1990年代のような急激に減少する前兆でないと良いのですが。もう一つはIUCN（国際自然保護連合）の発行するレッドリストの中で、アカウミガメが絶滅危惧IB類（Endangered）から絶滅危惧II類（Vulnerable）にランクダウンしたこと。額面どおりに受け取れば、絶滅の危険性が減った、ということになります。今回はさらに、個体群ごとの評価がアカウミガメでは初めて行われたのですが、日本を含む北太平洋の個体群は軽度懸念（Least Concern）となり、絶滅のおそれはない、とされています。実を言うと、この評価を下したウミガメ専門部会には日本ウミガメ協議会前会長の亀崎直樹博士や現会長の松沢慶将博士に私も加わっています。我々を含めウミガメ部会の中でも絶滅のおそれがないとは思っておらず、結果と感覚がかけ離れる結果となってしまいました。ただし、2000年代においては産卵巣数が大幅に増加したことは事実であり、またひとつ、転換点を迎えたのかな、という気がしています。

さて、今号では査読付き1編を含む3編の論文に加え、日本ウミガメ協議会より第26回日本ウミガメ会議の開催報告と2015年のウミガメ速報まとめを掲載した。1編目は私の著作であるので置いておくとしよう。まず、米須氏らには沖縄島で定期的に産卵を行うタイマイがいること、さらにはその産卵周期や成長（ほぼしていないこと）を明らかにしていただいた。まずもってして、日本で産卵しているタイマイを個体識別し、2002年から追跡し続けていることは驚異的である。国内の野生タイマイについての情報が非常に乏しい中、その多大な努力量に支えられて得られた今回の結果は、非常に重要で得がたいものである。高橋さんらからはアカウミガメの同じ雄が約1ヶ月の間に繰返し定置網に入ることと、その時期が交尾期に重なることから、この定置網の設置されている沖縄島の西海域はアカウミガメの交尾海域ではないかという報告をいただいた。日本近海ではアカウミガメを含めてウミガメ類の交尾海域はまだ良くわかっていない。近年になって、散発的な報告がいくつか出始めており、まだまだそれらをつなぎ合わせることでようやく見え始めるか？という段階である。この報告が今後のための重要なピースの一つとなるのだろう。（石原）

うみがめニュースレターでは、身近な、ちょっとした出来事のお知らせや感想もお待ちしています。変な卵が見つかった、いつもは見ない場所でウミガメを見つけた、いままで付けてきた記録をちょっとまとめてみた、などなど、どんなことでも「ウミガメ」の文字が入れるものを残していきたいと思います。専門的な文章である必要はありません。気軽にnewsletter@umigame.orgまでご相談ください。

※ 次号は2016年7月末の発行を予定しています。

うみがめニュースレター編集委員会

編集委員長 石原 孝

編集顧問 亀崎直樹

編集委員

平間茂知・河津 勲・亀田和成・岡本 慶

デザイン

宮原尚子

Editor

Takashi Ishihara

Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan

Editorial Adviser

Naoki Kamezaki

*Okayama University of Science, Okayama, Japan
& Suma Aqualife Park, Hyogo, Japan*

Editorial Board

Shigetomo Hirama

Isao Kawazu

Kazunari Kameda

Kei Okamoto

Designer

Naoko Miyahara

Sea Turtle Association of Japan, Hirakata, Japan

2016年1月31日発行

発行 うみがめニュースレター編集委員会

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町5-17-18-302

NPO法人 日本ウミガメ協議会

E-mail: newsletter@umigame.org